

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
物理学		理学療法科/1年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	佐倉正樹(実務経験者)
授業の概要				
物理学とはなにか解説した後、リハビリの分野で特に理解が必要となる「ちから」について講義8回進めていく。 後半は試験にむけて問題を解きながら理解度を確認していく 【実務経験】高校勤務				
授業終了時の到達目標				
「ちから」について理解する 「てこ」について理解する 物理分野の国家試験問題に対応できる				
回	テーマ	内 容		
1	物理学で何を学ぶか	概論		
2	力の表し方、重力	スカラーとベクトル 力の単位、力の3要素		
3	力のつり合いと作用・反作用①	重力、重心、力のつり合い		
4	力のつり合いと作用・反作用②	つり合いの2力と作用・反作用		
5	いろいろな力、 $F=ma$ 、ベクトルの足し算	重力、張力、弾性力、垂直抗力、摩擦力、浮力、揚力、アルキメデスの原理		
6	力の合成・分解①	$F=ma$ を用いた運動計算の練習		
7	力の合成・分解②	カベクトルの合成・分解と練習		
8	てこの種類と原理①	てこの原理と種類1		
9	てこの種類と原理②	てこの原理と種類2		
10	力のモーメント	力のモーメントの練習問題		
11	力のモーメントと関節運動①	人体の関節における第1のてこ		
12	力のモーメントと関節運動②	人体の関節における第2、第3のてこ		
13	重力加速度	重力加速度の練習問題		
14	問題演習①	国家試験問題		
15	問題演習②	国家試験問題		
教科書・教材		評価基準		評価率
配布資料		期末試験		100.0%
				その他

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生物学		理学療法科/1年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	福田保(実務経験有)
授業の概要				
生物学から生命現象を理解することは、生物界の一員である人間を理解する上で大変重要である。本講義では生物の最小単位である細胞から講義を進め、生体内の化学反応、分子遺伝学について講義した後、生物の各器官系について順に講義していく。【実務経験】高校勤務				
授業終了時の到達目標				
細胞の構造、働きを理解する。 分子遺伝学を理解する。 生物の各器官系の構造、働きを理解する。				
回	テーマ	内容		
1	生命体のつくりとはたらき	生物の進化、生物の共通性、顕微鏡の歴史		
2	顕微鏡と細胞	分解能、細胞の構造1		
3	細胞の化学成分	細胞の構造2、細胞の成分		
4	体内の化学反応	代謝、確認テスト、酵素		
5	光合成と呼吸	光合成と呼吸		
6	細胞の増殖	細胞分裂		
7	ATPの生合成のまとめ	確認テスト、染色体		
8	遺伝情報の担い手	遺伝学の歴史1		
9	DNA複製・タンパク質の合成	遺伝学の歴史2		
10	ヒトの遺伝・変異	ヒトの遺伝学		
11	遺伝のまとめ	確認テスト、ホメオスタシス		
12	個体の調整1	呼吸系、消化系		
13	個体の調整2	循環系、免疫系1		
14	個体の調整3	免疫系2、神経系		
15	個体の調整4	内分泌系		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「系統看護学講座 生物学」高畑 雅一 他 著 医学書院		期末試験 課題・レポート	80.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
情報リテラシーⅠ(入門)		理学療法科/1年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	木下僚介(実務経験あり)
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義と演習を通じて、ネット社会で情報を安全に使いこなすための基礎知識を学ぶ。</li> <li>・Word・Excel・PowerPointの基礎的な知識・操作技術を学ぶ。</li> <li>・PC操作やタッチタイピングに慣れる。</li> </ul> <b>【実務経験】病院勤務</b>				
授業終了時の到達目標				
情報化社会のモラルやセキュリティ対策などについて理解する。 PCの基本的な操作技術を獲得する。 Wordの基本的操作を理解し、文章やレポートを作成できる。 Excelの基本的操作を理解し、表・グラフを作成できる。 PowerPointの基本操作を理解し、資料を作成できる。				
回	テーマ	内容		
1	情報リテラシーとは	情報化社会のモラルとセキュリティ		
2	情報を安全に使いこなすために①	個人情報や著作権の取り扱い		
3	情報を安全に使いこなすために②	Webやメールによるコミュニケーション モバイル機器の活用と管理		
4	基本的なPC操作とタイピング	PC操作の基本(Web授業に要する操作含む) ブラインドタッチの基礎		
5	Wordの活用①	レポートの作成		
6	Wordの活用②	Wordの基本操作		
7	Excelの活用	Excelの基本操作		
8	Power Pointの活用	Power Pointの基本操作		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
情報リテラシー入門編:FOM出版		確認テスト 課題・レポート	40.0% 60.0%	各自ノートパソコンを持参すること。 (*事前に満充電にしておくこと) 公欠以外の理由に

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
情報リテラシーⅡ（基礎）		理学療法科/1年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	木下（実務経験あり）
授業の概要				
<p>情報リテラシーの必要性について再認識する。            プレゼンテーション発表までの過程を通して、様々なPC操作や資料・データの収集方法や活用方法を学んだり、他者と協力し意見交換・問題解決しながら課題に取り組む実践的な経験を積む。  <b>【実務経験】</b> 病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>情報リテラシーの必要性を理解し説明・実践できる。            Word、Excel、PowerPointの様々な活用方法を学び実践できる。            プレゼンテーションに必要な資料・データを適切に収集したり活用できる。            伝わりやすいプレゼンテーション方法を学ぶ。            他者と協力して課題に取り組み、プレゼンテーション発表ができる。</p>				
回	テーマ	内容		
1	情報リテラシー概論	情報リテラシーの必要性		
2	Wordの活用	演習課題		
3	Excelの活用	演習課題		
4	PowerPointの活用	演習課題		
5	プレゼンテーション	伝わりやすいスライド、発表とは		
6	プレゼンテーション	発表準備		
7	プレゼンテーション	発表準備		
8	プレゼンテーション発表	発表と振り返り		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
情報リテラシー入門編：FOM出版		課題・レポート 確認テスト	70.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
統計学		理学療法科/1年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	西潟 央(実務経験有)
授業の概要				
近年、サービスの質を評価する手法として統計学的側面からのアプローチがなされており、分析ソフトの発達などを背景として、その関心は高まりつつある。本講義においては、こうした流れと今後の方向性を踏まえた上で、統計学の基礎的知識の習得を目的とする。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計学の必要性について説明できる。</li> <li>・取り扱うデータの尺度について理解できる。</li> <li>・データから規則性や傾向を計算できる。</li> <li>・データから表を作成できる。</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	統計の基礎	統計とは何か、なぜ必要か		
2	データを見る	名義・順序・間隔・比率尺度 グラフと表		
3	データの傾向を知る 1	平均値 中央値 最頻値		
4	予測と確率	加重平均 期待値		
5	表でデータをまとめる	度数分布表 相対度数		
6	多くのデータと予測	標本調査		
7	データの傾向を知る 2	相関関係 相関係数		
8	データの傾向を知る 3	正規分布 標準偏差		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布		期末試験 レポート・小テスト	80.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
スポーツビジネス論		理学療法科/4年	2025/後期	授業・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	西潟・他(実務経験者)
授業の概要				
スポーツ現場で活躍する理学療法士のための企業およびビジネスモデル構築のための基礎的な知識を学習する。				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
スポーツ現場で活躍する理学療法士のための企業およびビジネスモデル構築のための基礎的な知識を理解すること。				
回	テーマ	内容		
1	起業と個人事業	起業と個人事業についての基礎知識を学習する。		
2	起業手続き	起業手続きについて学習する。		
3	資本金と資金調達	資本金と資金調達について学習する。		
4	借り入れ・助成金	借り入れ・助成金について学習する。		
5	経理と税務	経理と税務について学習する。		
6	ビジネスモデル	種々のビジネスモデルについて学習する。		
7	労働集約型	労働集約型ビジネスについて学習する。		
8	物販	物販ビジネスについて学習する。		
9	デジタルコンテンツ	デジタルコンテンツ販売について学習する。		
10	ブランディング	個人ブランディングについて学習する。		
11	マーケティング	マーケティングについてを学習する。		
12	デジタルマーケティング	デジタルマーケティングについて学習する。		
13	SNS	ソーシャルネットワークサービスの活用法を学習する。		
14	ウェブサイト	ウェブサイト・ランディングページの基礎知識を学習する。		
15	契約	スポーツチームやアスリートとの契約について学習する。		
図書・教材 資料配布		評価基準	評価率	その他
		レポート課題	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
食育学		理学療法科/1年	2023/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	鈴木敦史(実務経験者)
授業の概要				
<p>食育とはなにか解説し、食育の現状と課題について講義する。またライフスタイルごとの食育、日本と諸外国での食文化を比較しながら講義を進めていく。          栄養についても栄養素の種類とそれらが体に及ぼす影響について講義し、さらに基礎代謝量やエネルギー消費量についての講義、計算方法も解説していく。【実務経験】レストラン勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>食育の現状と課題について理解する。          日本と諸外国の食文化の違いを知る。          栄養素の種類とそれらの作用を理解する。          基礎代謝量とエネルギー消費量を算出できる。</p>				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	オリエンテーション エネルギーってなんだろう？カロリー、ワット、ジュールについて		
2	基礎代謝量	食事摂取エネルギー量		
3	ライフステージと食育、乳幼児と食育	乳幼児・児童期～青壮年期と食育、育会者と食育		
4	栄養素の種類と主な機能	摂取エネルギー量と消費エネルギー量の関係 六大栄養素		
5	調理実習①	清潔、まな板・包丁の使い方		
6	調理実習②	米飯とみそ汁		
7	調理実習③	サラダ		
8	調理実習④	チキン料理		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
健康管理学		理学療法科/2年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	加藤久(実務経験あり)
授業の概要				
ヒトは食物を摂取し体内に必要な物質(栄養)を摂り入れることで生命活動を維持している。食物に含まれる栄養素の特性、栄養素の消化吸収など基礎栄養学を理解した上で傷病者の栄養管理の基礎知識を習得する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・五大栄養素の働き、代謝、栄養素の消化吸収などの基礎栄養学、栄養生理学について理解する。</li> <li>・ライフステージの栄養学、特に高齢期の栄養評価の基本的な考え方を理解し、健康維持・増進のための栄養ケアマネジメントを実行できるようにする。</li> <li>・生活習慣病(糖尿病など)の基本的栄養管理を習得する。</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	生化学・栄養学はおもしろい	なぜ生化学を学ぶのか、なぜ栄養学を学ぶのか リハビリテーションに活かす生化学・栄養学		
2	生化学・栄養学に必要な基礎化学	元素・元素・分子、化学結合 同化・異化		
3	五大栄養素、たんぱく質 1) たんぱく質とアミノ酸	蛋白質の分類・機能 アミノ酸の分類・機能		
4	五大栄養素、たんぱく質 2) 酵素・ホルモン	酵素の分類・作用機構 ホルモンの分類・作用機序		
5	五大栄養素、炭水化物 糖質の代謝	糖質の分類、TCAサイクル、糖新生		
6	五大栄養素、脂質 脂質の代謝	脂質の分類、脂肪酸の分類、 $\beta$ 酸化		
7	五大栄養素、無機質	無機質の種類・機能		
8	五大栄養素、ビタミン	ビタミンの種類・機能 脂溶性ビタミン、水溶性ビタミン		
9	栄養生理学 消化と吸収	消化器官、消化過程、 栄養素の吸収過程		
10	運動と栄養	運動とたんぱく質代謝、運動と脂質代謝		
11	リハビリテーションと栄養	リハビリテーションと栄養の関連性 リハビリテーション栄養における多職種連携		
12	栄養評価 栄養と摂食嚥下	低栄養と過栄養、栄養アセスメント、 摂食嚥下のメカニズム		
13	主な病態の栄養管理	糖尿病の栄養管理 虚弱高齢者の栄養管理		
14	静脈・経腸栄養法	栄養ケアマネジメント 栄養療法の選択、経腸栄養法、静脈栄養法		
15	総まとめ	復習、基礎栄養学のまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
リハベーシック生化学・栄養学 内山靖・藤井浩美・立石雅子編 医歯薬出版株式会社		レポートなどの課題提出 期末試験	20.0% 80.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
福祉住環境コーディネータ論		理学療法科/2年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	1単位(30時間)	必須	梶 直美(実務経験有)
授業の概要				
福祉住環境コーディネータ3級試験に合格できる知識を身に着ける 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
福祉住環境コーディネータ3級試験に合格する				
回	テーマ	内容		
1	総論	検定試験について 学習の進め方		
2	第1章第1節	確認問題○×チェックを解きつつ、テキスト内容を確認する		
3	第1章第2節第3節	確認問題○×チェックを解きつつ、テキスト内容を確認する		
4	第2章	確認問題○×チェックを解きつつ、テキスト内容を確認する		
5	第3章	確認問題○×チェックを解きつつ、テキスト内容を確認する		
6	第4章	確認問題○×チェックを解きつつ、テキスト内容を確認する		
7	第5章	確認問題○×チェックを解きつつ、テキスト内容を確認する		
8	過去問	第45回 試験・解答解説		
9	過去問	第43回 試験・解答解説		
10	過去問	第42回 試験・解答解説		
11	過去問	第41回 試験・解答解説		
12	過去問	第40回 試験・解答解説		
13	予想問題	予想問題 試験・解答解説		
14	予想問題	予想問題 試験・解答解説		
15	予想問題	予想問題 試験・解答解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・福祉住環境コーディネータ3級改訂5版 テキスト ・副教材:短期合格テキスト, 過去問		福祉住環境コーディネータ3級試験合格	100.0%	不合格の場合は、 レポート課題

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
心理学		理学療法科/1年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	
90分	15回	1単位(30時間)	必須	深澤大地(実務経験者)
授業の概要				
心理学とはなにか。学問的に解説した後、学生に身近な心理的要素を例に出し、共にどんな心理が働くか見ていく。そして、自分について心理的分析してみ、自身の心理的特徴を理解し、恋愛場面や対人関係における心理を考えてみる。この講義の最後にはメンタルヘルスについて学び、後期の臨床心理学の深い学びに繋げていく。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
心理学という学問を理解する。 自己分析できる。 自己を理解し、他者との心理の違いを理解して日常生活場面での対人関係に生かせる。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション			
2	心理学とは何か			
3	感じるころ			
4	見るころ			
5	学習について			
6	動機づけ			
7	考えるころ			
8	自己理解1	私とは?1		
9	自己理解2	私とは?2		
10	心理学からみた恋愛			
11	心理学からみた恋愛2			
12	対人魅力と対人関係			
13	メンタルヘルスについて1			
14	メンタルヘルスについて2			
15	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
障害福祉論		理学療法科/4年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	中村尚紀(実務経験あり)
授業の概要				
本講義では、障害者福祉全般についての理解を深め、ノーマライゼーションをはじめとする障害者福祉の理念、歴史、また制度などの幅広い知識の習得を図る。【実務経験:病院勤務】				
授業終了時の到達目標				
「障害」の概念を理解することができる。 自らの障害観を内省し、共生社会について考えることができる。				
回	テーマ	内容		
1	概念	障害者の定義		
2	理念と展開	障害者福祉とは		
3	障害者の生活	生活実態		
4	障害者福祉の歴史			
5	法体系			
6	障害者運動	歴史と意義		
7	障害者と教育			
8	障害者と就労	雇用実態		
9	自立支援法			
10	国際	障害者の国際動向		
11	事例検討			
12	福祉の動向	我が国の福祉の動向		
13	障害者の所得保障	障害者の経済状況		
14	事例検討	自身の障害者観について		
15	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
医学英語		理学療法科/1年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	西潟・梶(実務経験有)
授業の概要				
<p>実習・臨床場面における記載内容等の理解を助けていくために、英語その他について学習する。  <b>【実務経験】</b> 病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>1. 医療現場・リハビリテーション分野で使われている英語・略語について、その正式名称・内容を説明できる。  2. 身体所見や検査所見の英語・略語について、その正式名称・内容を説明できる。</p>				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション リハビリ・健康の定義	リハビリテーションの語源、歴史、リハビリテーション療育などについての英語表記		
2	各職種の表記	リハビリテーションチームの職種の英語表現とその職種の内容		
3	身体各部の構造とその働き①	身体の一部(上下肢体幹)や骨・関節についての英語表記		
4	身体各部の構造とその働き②	関節運動の医学的表現と英語表記と実際のその動き		
5	肢位・体位	姿勢について仰臥位・伏臥位・座位・立位等の運動学的表現とその英語表記		
6	身体・検査所見	診断・検査の方法およびその英語表記		
7	発症から診断・治療・退院までの流れの一例	発症から診断・治療・退院までの流れについて例を挙げて英語表記		
8	筆記体で書かれたカルテを読み取る	筆記体の読み書きができるようになる		
9	カルテ記載項目の英語表記・略語①	略語で書かれる医学英語を知る		
10	カルテ記載項目の英語表記・略語②	略語で書かれる医学英語の読み書きができるようになる		
11	カルテ記載項目の英語表記・略語③	略語で書かれる医学英語で記録できるようになる		
12	リハビリテーションで用いる英略語疾患を知る①	CVA, RA, など 発表形式		
13	リハビリテーションで用いる英略語疾患を知る②	Colles functionなど 発表形式		
14	リハビリテーションで用いる英略語疾患を知る③	CP, COPMなど 発表形式		
15	リハ室で用いる簡単な英会話	私は理学療法士の〇〇です。今日の調子はいかがですか？ これから、リハビリテーションを始めましょう！発表形式		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布		期末試験 確認テスト・課題など	70.0% 30.0%	・医学英語は、カルテを読んだり、チーム医療のコミュニケーションツールとして重要です。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
コミュニケーション援助技術論		理学療法科/1年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	竹中 誠(実務経験あり)
授業の概要				
医療現場で学生として求められるコミュニケーション・スキルについて学ぶ。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
専門職としてふさわしい態度をとることができるようになる。				
回	テーマ	内容		
1	自己紹介・他己紹介 コミュニケーションとは	自己紹介、他己紹介		
2	接遇5原則(身だしなみ、挨拶、表情、話し方、態度)	身だしなみ、挨拶、表情、話し方、態度		
3	医療接遇、医療面接、聞き方、環境への配慮	問診と医療面接		
4	「マナー」「ルール」「モラル」「エチケット」	マナー、エチケット、モラル、ルール		
5	ビジネスマナー(電話対応、エレベーター、物の受け渡しなど)	電話対応、エレベーター、物の受け渡しマナー		
6	メール・手紙・SNSの書き方	手紙の書き方、インターネットトラブル		
7	報・連・相、名刺交換	報告・連絡・相談・名刺の受け渡し		
8	まとめ	お礼状フィードバック・コミュニケーションGW		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅰ		理学療法科/1年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	杉本 はるか(実務経験有)
授業の概要				
<p>人の根本である骨の構造について取りあげる。            座学だけでなく骨模型を用い、立体的に人体の構造を学ぶ。            解剖学Ⅱ(筋学)の起始・停止・作用の理解に必要な知識を習得する。</p>				
[実務経験] 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・解剖学的用語を理解する</li> <li>・骨の名称、位置について骨模型を用いて説明できる</li> <li>・骨の構造の特徴について説明できる</li> <li>・骨の微細構造と恒常性維持のための機能について説明できる</li> </ul>				
回	テーマ	講義・実技	日程	
1	解剖学総論	オリエンテーション		
2	骨格について	講義: 解剖学用語・骨格	4/14①②	
3	骨学各論①鎖骨・肩甲骨	鎖骨・肩甲骨の座学 骨模型を用いた演習	4/21①②	
4				
5	骨学各論②上腕骨	上腕骨の座学 骨模型を用いた演習	4/28①②	
6				
7	骨学各論③橈骨・尺骨	橈骨・尺骨の座学 骨模型を用いた演習	5/12①②	
8				
9	骨学各論④手部	手部の座学 骨模型を用いた演習	5/19①②	
10				
11	確認テスト①	個人演習	5/26①②	
12				
13	骨学各論⑤寛骨・骨盤	寛骨・骨盤の座学 骨模型を用いた演習	6/2①②	
14				
15	骨学各論⑥大腿骨・膝蓋骨	大腿骨・膝蓋骨の座学 骨模型を用いた演習	6/9①②	
16				
17	骨学各論⑦脛骨・腓骨	脛骨・腓骨の座学 骨模型を用いた演習	6/16①②	
18				
19	骨学各論⑧足部	足部の座学 骨模型を用いた演習	6/23①②	
20				
21	確認テスト②	個人演習	6/30①②	
22				
23	骨学各論⑨脊椎・胸骨・肋骨	脊椎・胸骨・肋骨の座学 骨模型を用いた演習	7/7①②	
24				
25	骨学各論⑩頭蓋骨	頭蓋骨の座学 骨模型を用いた演習	7/14①②	
26				
27	骨学総論	骨の微細構造 リモデリング	7/21①②	
28				
29	骨学まとめ③	個人演習	7/28①②	
30				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プロメテウス解剖学コアアトラス 第3版 (電子版) 医学書院		期末試験	70.0%	確認テストでは口頭試 問を行う。期末試験は 筆記試験を行う。
標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5 版 医学書院		確認テスト①	10.0%	
		確認テスト②	10.0%	
		確認テスト③	10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅱ(筋学)		理学療法科/1年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	山本政孝(実務経験あり)
授業の概要				
模型触診、動画視聴、イラストを通じて、筋肉を理解する				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人体を構成している筋名を列挙できる。</li> <li>・筋の起始・停止・支配神経が列挙できる。</li> <li>・筋の起始・停止や走行をイメージして、作用が理解できる。</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	概論	オリエンテーション		
2	筋とは	筋の構造について		
3	肩関節の筋肉	三角筋、棘上筋、棘下筋、小円筋、肩甲下筋		
4	肩関節の筋肉	三角筋、棘上筋、棘下筋、小円筋、肩甲下筋		
5	肩関節の筋肉	大円筋、広背筋、大胸筋、烏口腕筋		
6	肩関節の筋肉	大円筋、広背筋、大胸筋、烏口腕筋		
7	肩甲骨の筋肉	僧帽筋、肩甲挙筋、小菱形筋、大菱形筋、小胸筋、前鋸筋		
8	肩甲骨の筋肉	僧帽筋、肩甲挙筋、小菱形筋、大菱形筋、小胸筋、前鋸筋		
9	上腕の筋肉	上腕二頭筋、上腕筋、上腕三頭筋、肘筋、円回内筋、腕橈骨筋		
10	上腕の筋肉	上腕二頭筋、上腕筋、上腕三頭筋、肘筋、円回内筋、腕橈骨筋		
11	前腕～手指	橈骨手根屈筋、長掌筋、尺側手根屈筋、浅指屈筋、深指屈筋 長母指屈筋、方形回内筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋 総指伸筋、小指伸筋、尺側手根伸筋		
12	前腕～手指	橈骨手根屈筋、長掌筋、尺側手根屈筋、浅指屈筋、深指屈筋 長母指屈筋、方形回内筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋 総指伸筋、小指伸筋、尺側手根伸筋		
13	前腕～手指	回外筋、長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋、示指伸筋 短母指外転筋、短母指屈筋、母指対立筋、母指内転筋		
14	前腕～手指	回外筋、長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋、示指伸筋 短母指外転筋、短母指屈筋、母指対立筋、母指内転筋		
15	手指	短掌筋、小指外転筋、短小指屈筋、小指対立筋、虫様筋 背側骨間筋、掌側骨間筋		

回	テーマ	内 容		
16	下肢の筋肉	縫工筋、大腿直筋、外側広筋、中間広筋、内側広筋、恥骨筋 長内転筋、短内転筋、大内転筋		
17	下肢の筋肉	縫工筋、大腿直筋、外側広筋、中間広筋、内側広筋、恥骨筋 長内転筋、短内転筋、大内転筋		
18	下肢の筋肉	薄筋、外閉鎖筋、大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋 前脛骨筋、長趾伸筋、第三腓骨筋、長母趾伸筋、長腓骨筋、短腓骨筋		
19	下肢の筋肉	薄筋、外閉鎖筋、大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋 前脛骨筋、長趾伸筋、第三腓骨筋、長母趾伸筋、長腓骨筋、短腓骨筋		
20	下肢の筋肉	腓腹筋、ヒラメ筋、足底筋、膝窩筋、長趾屈筋 長母指屈筋、後脛骨筋		
21	下腿の筋肉	腓腹筋、ヒラメ筋、足底筋、膝窩筋、長趾屈筋 長母指屈筋、後脛骨筋		
22	頭部の筋肉 体幹筋群	胸鎖乳突筋、前斜角筋、中斜角筋、後斜角筋 横隔膜、腹直筋、外腹斜筋、内腹斜筋、腹横筋、腰方形筋 腰部多裂筋		
23	頭部の筋肉 体幹筋群	胸鎖乳突筋、前斜角筋、中斜角筋、後斜角筋 横隔膜、腹直筋、外腹斜筋、腹横筋、腰方形筋、腰部多裂筋		
24	寛骨筋群	腸骨筋、大腰筋、大殿筋、中殿筋、小殿筋、大腿筋膜張筋 梨状筋、内閉鎖筋、上双子筋、下双子筋、大腿方形筋		
25	寛骨筋群	腸骨筋、大腰筋、大殿筋、中殿筋、小殿筋、大腿筋膜張筋 梨状筋、内閉鎖筋、上双子筋、下双子筋、大腿方形筋		
26	足の筋肉	母趾外転筋、短母趾屈筋、母趾内転筋、小趾外転筋、短小趾屈筋 小趾対立筋、短趾屈筋、足底方形筋、虫様筋、底側骨間筋 短母趾伸筋、短趾伸筋		
27	足の筋肉	母趾外転筋、短母趾屈筋、母趾内転筋、小趾外転筋、短小趾屈筋 小趾対立筋、短趾屈筋、足底方形筋、虫様筋、底側骨間筋 短母趾伸筋、短趾伸筋		
28	咀嚼筋	側頭筋、咬筋、外側翼突筋、内側翼突筋		
29	咀嚼筋	側頭筋、咬筋、外側翼突筋、内側翼突筋		
30	まとめ	復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プロメテウス解剖学コアアトラス 第3版 (電子版) 医学書院 標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5 版 医学書院		期末試験 イラスト課題 小テスト	70.0% 10.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅲ (内臓・脈管学)		理学療法科/1年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	白瀬・竹中 (実務経験あり)
授業の概要				
理学療法士や作業療法士が対象とする内科疾患 (循環器、呼吸器、泌尿器、消化器、内分泌) の病態を理解するため、講義・演習を通して構造を学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・循環器系: 心臓と、脳・上肢・下肢への血液供給を理解する</li> <li>・呼吸器系: ガス交換に関わる肺と、発生に関わる喉頭について理解する</li> <li>・消化器系: 胃、腸、肝臓、および嚥下にかかわる構造体を理解する</li> <li>・泌尿器系: 腎臓および排尿に関わる構造体を理解する</li> <li>・生殖器系: 男性では精巣および勃起と射精に関わる構造体を理解する</li> <li>女性では卵巣と子宮の性周期における変化を理解する</li> <li>・内分泌系: 各内分泌系の特徴を学び、分泌されるホルモンとその主要作用を理解する</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	総論	理学療法・作業療法との関連事項		
2	血管系	動脈と静脈、毛細血管、吻合と終動脈		
3	心臓	位置、区分、弁、心臓壁の構成、心膜		
4	リンパ系 (1)	毛細リンパ管、リンパ管、リンパ節		
5	鼻	外鼻と鼻腔、副鼻腔		
6	気管と気管支 肺	気管と気管支		
7	肺	肺		
8	胸膜と縦隔	胸膜と縦隔		
9	消化器系 (口腔)	口蓋、舌、歯、唾液腺		
10	食道、胃	食道、胃		
11	小腸、大腸	十二指腸、空腸、回腸、盲腸、結腸、直腸		
12	肝臓、胆嚢	肝臓、胆嚢		
13	泌尿器系	腎臓		
14	生殖器系	生殖器		
15	内分泌系	ホルモンと標的細胞、下垂体		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5版 医学書院 病気がみえるvol.2 循環器 MEDIC MEDIA 病気がみえるvol.4 呼吸器 MEDIC MEDIA		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅳ(神経学)		理学療法科/1年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	竹中誠(実務経験有)
授業の概要				
中枢神経疾患の特徴を理解するために、それぞれの構造や働きを講義、演習を通して学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1. 中枢神経系の構造と働きについて概説できる。 2. 脳の構造と働きについて概説できる。 3. 大脳皮質、大脳辺縁系、脳幹、小脳それぞれの機能と構造について説明できる。				
回	テーマ	内容		
1	神経系総論	神経系の区分		
2	神経系の構成	神経組織、中枢神経系の構成、末梢神経系の構成		
3	髄膜と脳室系	髄膜と脳室系の構成		
4	神経系の発生	脊髄、脳、末梢神経の発生		
5	脊髄	脊髄の外形と横断面		
6	脳幹	延髄		
7	脳幹	橋		
8	脳幹	中脳、網様体		
9	小脳	小脳の外形と区分		
10	小脳	小脳の入出力と機能		
11	大脳	間脳		
12	大脳	大脳半球		
13	大脳	大脳皮質と髄質		
14	大脳	大脳皮質の機能局在		
15	大脳	大脳基底核		

回	テ - マ	内 容		
16	神経路	上行性神経路①		
17	神経路	上行性神経路②		
18	神経路	下行性神経路①		
19	神経路	下行性神経路②		
20	脊髄神経	頸神経		
21	脊髄神経	頸神経		
22	脊髄神経	腰神経		
23	脊髄神経	腰神経		
24	脊髄神経	仙骨神経		
25	脊髄神経	仙骨神経		
26	脳神経	嗅神経、視神経、動眼神経		
27	脳神経	滑車神経、三叉神経、外転神経		
28	脳神経	顔面神経、内耳神経、舌咽神経		
29	脳神経	迷走神経、副神経、舌下神経		
30	自律神経	交感神経系、副交感神経系		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5版 医学書院 病気がみえるVol.7 脳・神経 第2版 MEDIC MEDIA		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生理学Ⅰ		理学療法科/1年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	西潟・小島・牛丸 (実務経験あり)
授業の概要				
理学療法士や作業療法士が対象とする内科疾患(循環器、呼吸器)の病態を理解するため、講義・演習を通して機能を学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・血液の機能を理解できる</li> <li>・循環器系の機能を理解できる</li> <li>・呼吸器系の機能を理解できる</li> <li>・筋および神経の機能を理解できる 排泄の仕組みを理解できる</li> </ul>				
回	テーマ	内 容		
1	総論	恒常性、生物学との関連		
2	血液(1)	血液の組成と機能		
3	血液(2)	赤血球		
4	血液(3)	白血球、血小板		
5	血液(4)	血漿 血液型		
6	心臓と循環(1)	血液の循環		
7	心臓と循環(2)	心臓の興奮と刺激伝導系		
8	心臓と循環(3)	心電図		
9	心臓と循環(4)	血液の拍出と血圧		
10	心臓と循環(5)	心機能曲線		
11	筋肉(1)	筋の分類		
12	筋肉(2)	骨格筋		
13	筋肉(3)	心筋と平滑筋		
14	筋肉(4)	心筋		
15	神経(1)	神経の興奮伝導		

回	テ ー マ	内 容		
16	神経 (2)	末梢神経		
17	神経 (3)	自律神経		
18	神経 (4)	中枢神経系		
19	感覚 (1)	感覚とは		
20	感覚 (2)	体性感覚 内臓感覚 特殊感覚		
21	呼吸とガスの運搬 (1)	外呼吸とない呼吸		
22	呼吸とガスの運搬 (2)	呼吸運動 呼吸気量		
23	呼吸とガスの運搬 (3)	ガス交換とガスの運搬		
24	呼吸とガスの運搬 (4)	呼吸の調節		
25	呼吸とガスの運搬 (5)	病的呼吸		
26	尿の生成と排泄 (1)	腎臓の役割と構造		
27	尿の生成と排泄 (2)	尿の生成		
28	尿の生成と排泄 (3)	クリアランス		
29	尿の生成と排泄 (4)	排尿		
30	尿の生成と排泄 (5)	尿の性状と排尿異状		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 生理学第5版 医学書院		期末試験 小テスト	80.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生理学Ⅱ		理学療法科/1年	2023/後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	小島・西潟・牛丸 (実務経験あり)
授業の概要				
理学療法士や作業療法士が対象とする内科疾患(泌尿器、消化器、内分泌)の病態を理解するため、講義・演習を通して機能を学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・泌尿器の機能を理解できる</li> <li>・酸塩基平衡を理解できる</li> <li>・消化器系の機能を理解できる</li> <li>・感覚器系の機能を理解できる</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	概論	理学療法・作業療法との関連事項		
2	泌尿器(1)	腎臓の役割1		
3	泌尿器(2)	腎臓の役割2		
4	泌尿器(3)	腎臓の構造		
5	泌尿器(4)	尿の生成		
6	泌尿器(5)	クリアランス		
7	泌尿器(6)	排尿		
8	泌尿器(7)	尿の性状と排尿の異常		
9	酸塩基平衡(1)	血漿のpH調節		
10	酸塩基平衡(2)	アシドーシスとアルカローシス		
11	消化(1)	消化器の役割		
12	消化(2)	口腔内消化と嚥下		
13	消化(3)	食道における食物輸送		
14	消化(4)	胃の役割と消化		
15	消化(5)	十二指腸における消化		

回	テ ー マ	内 容		
16	消化（6）	空腸・回腸における消化と栄養素の吸収		
17	消化（7）	大腸の役割		
18	消化（8）	肝臓の役割 1		
19	消化（9）	肝臓の役割 2		
20	感覚（1）	感覚とは		
21	感覚（2）	体性感覚		
22	感覚（3）	内臓感覚		
23	感覚（4）	特殊感覚 1		
24	感覚（5）	特殊感覚 2		
25	感覚（6）	特殊感覚 3		
26	内分泌（1）	内分泌機能とホルモン		
27	内分泌（2）	内分泌機能とホルモン		
28	内分泌（3）	各腺から分泌されるホルモンの作用 1		
29	内分泌（4）	各腺から分泌されるホルモンの作用 2		
30	内分泌（5）	各腺から分泌されるホルモンの作用 3		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第4版	期末試験 小テスト	80.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動学Ⅰ(総論)		理学療法科/1年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	小島利彦(実務経験有)
授業の概要				
身体運動を理解するための基礎知識を学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・四肢と体幹の運動を理解するための基礎知識を学ぶ。</li> <li>・運動分析、動作分析を理解できる。</li> <li>・生活力学が理解できる。</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション、総論			
2	上肢帯と肩関節での上肢の運動①	関節と靭帯		
3	上肢帯と肩関節での上肢の運動②	上肢帯と肩関節での上肢の動き		
4	上肢帯と肩関節での上肢の運動③	上肢帯の筋、肩関節の筋		
5	肘関節と前腕の運動①	関節と靭帯		
6	肘関節と前腕の運動②	肘関節における前腕の動き、肘関節の筋		
7	上肢帯と上肢の運動			
8	手関節と手の運動①	皮膚、骨、関節と靭帯		
9	手関節と手の運動②	腱鞘、指背腱膜、手関節と手の運動		
10	手関節と手の運動③	手のアーチ、手の把持動作パターン		
11	手関節と手の運動④	手の機能姿勢、手の変形		
12	顔面および頭部の運動			
13	体幹の運動①	頸椎の運動		
14	体幹の運動②	胸椎と胸郭の運動		
15	体幹の運動③	腰椎の運動		

回	テ ー マ	内 容		
16	下肢帯と股関節の運動①	関節と靭帯		
17	下肢帯と股関節の運動②	股関節の動き		
18	下肢帯と股関節の運動③	股関節の筋		
19	膝関節の運動			
20	足の関節と足の運動	アーチの構造と機能		
21	下肢帯と下肢の運動			
22	姿勢・動作①	重心、立位姿勢		
23	姿勢・動作②	立位姿勢の異常		
24	歩行と走行①	歩行周期、異常歩行		
25	歩行と走行②	運動力学的分析		
26	運動発達			
27	呼吸・エネルギー代謝			
28	運動学習			
29	バイオメカニクス①	運動学的分析、円運動、モーメント		
30	バイオメカニクス②	運動法則、身体とてこ、骨と関節の運動		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
基礎運動学（第6版） 中村隆一 医歯薬出版株式会社		期末試験	100.0%	合計が60%未満の場合は、レポート課題を実施します。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動学Ⅱ(下肢・体幹・歩行)		理学療法科/2年	2023/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	小島 利彦
授業の概要				
<p>運動学Ⅰで学習した運動学の基本的な知識・理論を用いて実技や実習を行うことで、運動学に基づく技能や思考力・説明力を身に付ける。実習ごとに授業内でグループ内発表と個人ワークの時間を取り入れ、主体的かつ効率的に学習できるよう工夫する。補足として教科書を使用するが、学生同士の意見交換や教員からの説明および質疑応答、実技・課題遂行での気付き等からの学びを多く得られる授業を目指す。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>上下肢・体幹の各分野において骨・筋・神経・関節構成体の構造・機能を口頭および文章で説明できる。理学療法評価・治療において基礎となる組織の触診を行うことができる。運動学実習の結果について考察した内容をまとめて、レポートを作成しグループ内で発表できる。運動学に関連する機能解剖や諸理論、姿勢・動作等についてより深く理解することができる。</p>				
回	テーマ		内容	
1	運動学実習①(触診・座学)		股関節の触診	
2	運動学実習①(触診・座学)		膝関節の触診	
3	運動学実習①(触診・座学)		足関節・足部の触診	
4	運動学実習①(触診・座学)		肩複合体の触診	
5	運動学実習①(触診・座学)		肘関節の触診	
6	運動学実習①(触診・座学)		手関節・手指の触診	
7	運動学実習①(触診・座学)		頭部頸部の触診	
8	運動学実習①(触診・座学)		胸椎・腰椎の触診 運動学実習②～⑧グループ分け	
9	運動学実習②(筋力)		膝筋力測定器(バイオデックス)測定/確認テスト	
10	運動学実習②(筋力)		個人ワーク(データ整理・考察・まとめ)	
11	運動学実習②(筋力)		グループ内発表	
12	運動学実習③(筋持久力)		膝筋力測定器(バイオデックス)測定/確認テスト	
13	運動学実習③(筋持久力)		個人ワーク(データ整理・考察・まとめ)	
14	運動学実習③(筋持久力)		グループ内発表+個人ワーク	
15	運動学実習④(感覚)		二点識別覚の検査/確認テスト	
16	運動学実習④(感覚)		個人ワーク(データ整理・考察・まとめ)	
17	運動学実習④(感覚)		グループ内発表+個人ワーク	
18	運動学実習⑤(立位姿勢)		立位アライメント測定/確認テスト	
19	運動学実習⑤(立位姿勢)		個人ワーク(データ整理・考察・まとめ)	
20	運動学実習⑤(立位姿勢)		グループ内発表+個人ワーク	
21	運動学実習⑥(姿勢制御)		重心動揺計測定/確認テスト	
22	運動学実習⑥(姿勢制御)		個人ワーク(データ整理・考察・まとめ)	
23	運動学実習⑥(姿勢制御)		グループ内発表+個人ワーク	
24	運動学実習⑦(動作分析・立ち上がり)		重心動揺計測定/確認テスト	
25	運動学実習⑦(動作分析・立ち上がり)		個人ワーク(データ整理・考察・まとめ)	
26	運動学実習⑦(動作分析・立ち上がり)		グループ内発表+個人ワーク	
27	運動学実習⑧(動作分析・歩行)		10m歩行測定・歩行観察/確認テスト	
28	運動学実習⑧(動作分析・歩行)		個人ワーク(データ整理・考察・まとめ)	
29	運動学実習⑧(動作分析・歩行)		グループ内発表+個人ワーク	
30	国家試験問題			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
筋骨格系のキネシオロジー 機能解剖学的触診技術(上肢・下肢)		課題(レポート・ノート) 実技・口頭試問 期末試験	30.0% 20.0% 50.0%	<実技・口頭試問> 触診・到達知識 <期末試験> 機能解剖、動作理解 <課題> 実習レポート・ノートを紙面またはデータで提出

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間発達学		理学療法科/1年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	杉本和彦(実務経験有)
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・正常発達について</li> <li>・発達心理学について</li> <li>・小児疾患における運動発達の問題点について</li> <li>・発達障害について 【実務経験】病院勤務</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
小児の運動面、認知面の発達に関する知識及び生涯にわたる発達の意味を理解する				
回	テーマ	内容		
1	小児の保健概論	身長と体重の変化 スキャモンの発達曲線 発達に関する定義		
2	胎児の運動発達	胎芽と胎児の発達過程 早期産、未成熟児の抱える問題について		
3	1歳児までの粗大運動の発達について1	原始反射、姿勢反射・反応について		
4	1歳児までの粗大運動の発達について2	首のすわり、寝返りの獲得までの発達のポイントについて		
5	1歳児までの粗大運動の発達について3	座位獲得の意味するところについて		
6	1歳児までの粗大運動の発達について4	立ち上がり、歩行獲得までの発達のポイントについて		
7	1歳児以降の運動の発達について1	3歳までの粗大運動の発達過程について		
8	1歳児以降の運動の発達について2	4～6歳までの粗大運動の発達について		
9	手の機能と摂食・嚥下機能の発達について	粗大運動の発達をベースにした微細運動の発達過程について		
10	発達心理学概論1	感覚・知覚・認知の発達、知的活動の発達、心の理論		
11	発達心理学概論2	エリクソンの発達課題、老年期の課題		
12	運動発達に困難さを示す小児疾患について(CP)1	脳性まひの発達における困難さについて(両麻痺、四肢麻痺)		
13	運動発達に困難さを示す小児疾患について(CP)2	脳性まひの発達における困難さについて(片麻痺、アテトーゼ)		
14	運動発達に困難さを示す小児疾患について(CP以外の)3	筋ジストロフィー、二分脊椎、ダウン症の発達における困難さについて		
15	発達障害について	自閉症スペクトラム、ADHD、LD児の有する発達上の困難さについて		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
イラストでわかる人間発達学 上杉雅之監修 医歯薬出版		期末試験 課題・レポート	60.0% 40.0%	

作成者:野口、田中、高木

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
病理学概論		理学療法科/1年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	野口、田中、高木 (実務経験有)
授業の概要				
全講義15回。 病理学では生体が機能低下に陥った時の反応を学ぶ科目である。したがって生理学を理解していることが前提となる。 病理学でも各器官ごとの病態を解説していく。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
各器官ごとの病態を理解する。				
回	テーマ	内容		
1	総論①(先天異常、代謝障害)	病理学総論、先天異常、代謝障害		
2	総論②(進行性病変、循環障害)	進行性病変、循環障害		
3	総論③(炎症、腫瘍)	炎症、腫瘍		
4	総論④(免疫病理と感染症)	免疫病理と感染症		
5	循環障害	局所循環障害、全身性循環障害		
6	炎症	炎症細胞、炎症の分類		
7	免疫	免疫病理		
8	感染症	感染源、感染症の成立		
9	代謝障害	萎縮、蛋白変性、脂肪・糖原・色素変性		
10	老化、新生児、遺伝	老化と病気、正常生ま		
11	腫瘍	腫瘍の定義と分類、形態		
12	消化器、呼吸器	口腔・消化管、肝臓、膵臓		
13	造血器、腎臓	機能と形態		
14	内分泌、神経、運動器	機能と形態		
15	定期試験、まとめ	病理診断		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「カラーで学べる 病理学 第4版」渡辺照男 編 ニューベルヒロカワ		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床心理学		理学療法科/1年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	深澤大地(実務経験者)
授業の概要				
臨床心理学とは何か解説した後、ライフサイクルに沿った心の発達過程、心理的問題について解説していく。 講義後半ではカウンセリングについて講義し、カウンセリングの流れを解説していく。また事例を挙げても解説を加え、注意点も合わせて説明していく。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
ライフサイクルに沿った心の発達過程、心理的問題について理解する。 カウンセリングの流れを知る。				
回	テーマ	内容		
1	臨床心理学とは	臨床心理とは?臨床心理学総論		
2	乳幼児のころ	乳幼児期		
3	乳児期のころ	幼児期		
4	乳児期のころの問題	幼児期の心理的問題		
5	児童期のころ	児童期		
6	思春期のころ	思春期①		
7	思春期のころの問題	思春期②		
8	青年期・成人期のころ	青年期、成人期		
9	カウンセリング1	カウンセリングについて～導入～		
10	カウンセリング2	カウンセリングについて～方法～		
11	カウンセリング3	カウンセリングについて～解釈～		
12	カウンセリング4	カウンセリングについて～解釈～		
13	こどものカウンセリング	子どものカウンセリング		
14	保護者支援	保護者支援		
15	まとめ	復習とまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
整形外科学		理学療法科/2年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	津田亮二(実務経験あり)
授業の概要				
整形外科の病態と治療過程について理解を深めることを目的とする。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
整形疾患の病態と治療課程について理解する。				
回	テーマ	内容		
1	軟部組織損傷、骨折、脱臼総論	骨と軟骨と関節について		
2	脊椎、脊髄損傷	脊髄損傷		
3	末梢神経損傷	神経断裂		
4	スポーツ障害と外傷	種々の疾患・病態・治療法など		
5	上肢・胸郭の外傷、骨盤・下肢の外傷	種々の疾患・病態・治療法など		
6	頸椎疾患・胸椎・腰痛疾患	種々の疾患・病態・治療法など		
7	慢性関節疾患	種々の疾患・病態・治療法など		
8	関節リウマチとその類縁疾患	寛解レベル		
9	肩・肘関節疾患	種々の疾患・病態・治療法など		
10	手関節・手指の疾患	種々の疾患・病態・治療法など		
11	股関節疾患	大腿骨骨折中心に		
12	膝関節疾患	変形性膝関節症を中心に		
13	足関節・足趾の疾患	種々の疾患・病態・治療法など		
14	骨軟部腫瘍、先天異常・系統疾患	癌		
15	まとめ1	整形疾患全般に関わるうえでのリスク		
16	まとめ2	整形疾患全般		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
『標準整形外科学 第15版』松野丈夫 著 医学書院 『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学第3版』立野勝彦 著 医学書院		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
内科学Ⅰ（総論）		理学療法科/1年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	山田・武田 （実務経験有）
授業の概要				
内科学診断のためのアプローチや治療法について学習する。また、療法士としての必要な内科学の基本的な知識を習得することを目標とする。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
内科学に関する基本的知識、各種疾病の病態概念、治療のアウトライン等を習得する 1. バイタルサインを正しく測定できる 2. 患者さんの訴えおよび症候から内科疾患を絞り定める 3. 内科学の全領域を学習し、リハビリテーション治療を受ける患者さんの基礎疾患の病態を理解できる 4. 感染症を理解して公衆衛生学観点から感染を予防するなど危機管理に努める 5. 内科学の基本的知識をもって患者さんの微小な病態変化を迅速に察知し、最適な対応がとれる				
回	テーマ	内 容		
1	内科学総論	リハビリテーションとの関係 診断と治療の実際		
2	症候学	症候とは何か 主要な症候を生じる病態と関連疾患		
3	循環器疾患 1	循環器系の解剖と生理		
4	循環器疾患 2	主要な症候		
5	循環器疾患 3	診断法		
6	疾患各論 1	高低血圧症、心疾患		
7	疾患各論 2	大動脈疾患、末梢血管疾患		
8	呼吸器疾患 1	解剖と生理		
9	呼吸器疾患 2	主要な症候と病態生理		
10	呼吸器疾患 3	臨床検査所見		
11	疾患各論 1	COPD、肺疾患		
12	疾患各論 2	呼吸不全、異常呼吸		
13	血液・造血器疾患	主要な症候と病態生理		
14	代謝性疾患	主要な症候と病態生理		
15	まとめ、復習	振り返り		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 内科学 第3版 配布資料		期末試験	100.0%	

作成者:柳川・塚田

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
内科学Ⅱ(各論)		理学療法科/2年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	柳川・塚田・武田(実務経験あり)
授業の概要				
<p>内科学Ⅰで学んだ基礎知識をもとに、循環器・呼吸器・消化器・血液・内分泌疾患の各論について理解を深める。療法士として必要な内科学の応用的な知識の習得を目標とする。</p> <p>【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>内科学に関する基本的知識、各種疾病の病態概念、治療のアウトライン等を習得する。</p> <p>1. バイタルサインを正しく測定できる。</p> <p>2. 患者さんの訴えおよび症候から内科疾患を絞り定める。</p> <p>3. 内科学の全領域を学習し、リハビリテーション治療を受ける患者さんの基礎疾患の病態を理解できる。</p> <p>4. 感染症を理解して公衆衛生学観点から感染を予防するなど危機管理に努める。</p> <p>5. 内科学の基本的知識をもって患者さんの微小な病態変化を迅速に察知し、最適な対応がとれる。</p>				
回	テーマ	内容		
1	消化器疾患1	消化器疾患 消化管の解剖と生理		
2	消化器疾患2	消化管疾患の症候とその病態生理、検査法		
3	消化器疾患3	消化管疾患各論		
4	肝胆膵疾患1	肝胆膵疾患 肝臓、胆道系、膵臓、腹膜の解剖と生理		
5	肝胆膵疾患2	肝胆膵疾患、腹膜疾患の検査・診断法と各論		
6	内分泌疾患1	内分泌疾患 総論、内分泌腺の総論、解剖と生理		
7	内分泌疾患2	内分泌検査法、内分泌疾患各論		
8	腎・泌尿器疾患1	腎・泌尿器疾患 腎臓の解剖と生理		
9	腎・泌尿器疾患2	腎疾患の症候と病態生理、検査法		
10	腎・泌尿器疾患3	腎・泌尿器疾患各論		
11	電解質異常	電解質代謝		
12	アレルギー疾患	免疫系の働き、アレルギー疾患の各論		
13	膠原病、リウマチ性疾患、免疫不全症	膠原病、リウマチ性疾患、免疫不全症の各論		
14	感染症1	感染症総論		
15	感染症2	感染症各論		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 内科学 第3版 配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
神経内科学Ⅰ(総論)		理学療法科/1年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	竹中 誠(実務経験有)
授業の概要				
神経疾患による障害に対して理学療法や作業療法を行うためには、これらの疾患に関する十分な知識をもつことと、これら疾患の患者の中で多数を占める高齢者の精神身体面の特徴、ことに加齢に伴う内科疾患などの合併症について十分な知識が必要である。本科目では各論を学ぶ上で必要となる神経症候学についての基礎知識を習得することを目的とする。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
神経学的診断や症候について評価する上で必要となる知識を習得する				
回	テーマ	内容		
1	神経学的診断と評価	神経学的診断の実際、体幹・四肢の診療と検査 障害の評価		
2	神経学的検査法	画像診断、神経生理学的検査、自律神経機能検査 腰椎穿刺と血液生化学検査		
3	神経症候学	意識障害、脳死、植物状態		
4	神経症候学	頭痛、めまい、失神		
5	神経症候学	運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮		
6	神経症候学	錐体外路徴候、不随意運動		
7	神経症候学	運動失調		
8	神経症候学	感覚障害		
9	神経症候学	高次脳機能障害：総論、失語症		
10	神経症候学	高次脳機能障害：失認、失行		
11	神経症候学	高次脳機能障害：記憶障害		
12	神経症候学	高次脳機能障害：注意障害、遂行機能障害		
13	神経症候学	構音障害		
14	神経症候学	嚥下障害		
15	神経症候学	脳神経外科領域疾患の代表的症候		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第5版 改訂第2版 神経診察クローズアップ 正 しい病巣診断のコツ		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
神経内科学Ⅱ (各論)		理学療法科/2年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	竹中誠(実務経験あり)
授業の概要				
<p>神経内科学とは、中枢・末梢神経系および筋肉の内科的疾患を対象とする臨床医学である。リハビリテーションの対象は、神経筋骨格系に生ずる身体障害であるが、最近は認知を含む高次脳機能障害や障害者の心理社会的側面も対象領域となってきた。特に後者は、専門性が高く、将来飛躍的に需要が伸びる分野であろうと思われる。本講義は神経内科学総論であり、関連疾患の臨床症状や診断法について述べる。学習目的は関連用語の修得とリハビリテーション医学に於ける障害分析能力の育成である。</p> <p>【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・神経症候学の基礎を理解し、障害の理解が図れる。</li> <li>・神経症候を呈する病態・臨床症状・診断・治療を疾患区分ごとに理解できる。</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	中枢神経系の解剖と機能	神経学的診断と評価と神経学的検査法		
2	神経診断1	意識障害、脳死、植物状態		
3	神経診断2	運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮		
4	神経診断3	錐体外路徴候、不随意運動、運動失調		
5	各論1	感覚障害		
6	各論2	高次脳機能障害		
7	各論3	講音障害および嚥下障害		
8	まとめ			
9	まとめ			
10	まとめ			
11	まとめ			
12	まとめ			
13	まとめ			
14	まとめ			
15	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
川平和美 他著『標準理学療法学・作業療法学 神経内科学第2版』医学書院。 田崎義昭・齋藤佳雄『ベッドサイドの神経の診かた』南山堂		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
精神医学		理学療法科/2年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	江守賢次(実務経験あり)
授業の概要				
精神医学における主要疾患の症状、診断、治療法について述べ、精神療法の概要についての理解を深める。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>精神医学における主要疾患の症状、診断、治療について説明することができる。</li> <li>精神療法の概要について理解することができる。</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	総論	精神医学とは		
2	精神症状1	精神障害の成因と分類		
3	精神症状2	精神機能の障害と精神症状		
4	精神科診断学1	精神障害の診断と評価		
5	精神科診断学2	脳器質性精神障害		
6	症状性精神障害	精神症状を伴う身体疾患		
7	精神作用物質による精神および行動の障害	薬物依存		
8	精神疾患1	てんかん		
9	精神疾患2	統合失調症		
10	精神疾患3	気分(感情)障害		
11	精神疾患4	神経症性障害		
12	成人のパーソナリティ	行動・性の障害		
13	コンサルテーション	リエゾン精神医学		
14	精神障害の治療とリハビリテーション	精神科リハビリテーション		
15	精神保健医療と福祉、職業リハ	精神保健福祉法		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
『学生のための精神医学 第3版』太田保之・上野武治編		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
小児科学		理学療法科/2年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	新谷尚久(実務経験あり)
授業の概要				
小児の医療とリハビリテーションをめぐる事柄全般について学習する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
小児の発達について理解し、発達の評価ポイントを理解し、説明できる。 小児で代表的な疾患や臨床症状について理解し、説明できる。				
回	テーマ	内容		
1	小児科学概論 診断と治療の概要	小児科の特徴、成長と発達、栄養と接触、保健 診断と検査、治療法		
2	新生児・未熟児疾患	胎児期、周産期、新生児期、新生児の評価と問題、早産児 の神経学的所見、新生児・周産期異常、疾患		
3	先天異常と遺伝病	遺伝と病気、染色体異常、先天奇形、先天代謝異常症		
4	神経・筋・骨系疾患	中枢神経疾患、てんかん、発達遅滞を伴う疾患、発達障 害、脊髄性疾患、筋疾患、骨・関節疾患		
5	循環器疾患	心血管系の発生と対外環境、症状と検査、発症頻度と原 因、先天性心疾患、後天性心疾患		
6	呼吸器疾患	発生と機能、症状と検査、治療と処置、代表的呼吸器疾患		
7	感染症	症状、診断と治療、各年代での代表的感染症		
8	消化器疾患	消化器の発生、機能的発達と症状、代表的消化器疾患、		
9	内分泌・代謝疾患	内分泌疾患、糖代謝異常		
10	血液疾患	造血組織の発生、血液の成分、赤血球系の異常、白血球系 の異常、出血性・血栓性疾患		
11	免疫・アレルギー疾患、膠原病	免疫、アレルギー、自己免疫疾患、膠原病		
12	腎・泌尿器系、生殖器疾患	腎・泌尿器系疾患、生殖器疾患		
13	腫瘍性疾患	悪性腫瘍の発生頻度、神経芽腫、網膜芽腫		
14	習癖・睡眠関連病態・心身医学的疾 患・虐待	習癖、睡眠関連病態、心身医学的疾患、児童虐待		
15	重症心身障害児 眼科・耳鼻科的疾患	重症心身障害児の定義および発達、療育の体制 眼科、耳鼻科		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学「小児科学」 第6版：富田豊編集：医学書院		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床医療学(栄養・医用画像・薬理学・救命救急)		理学療法科/2年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	西潟・他 (実務経験あり)
授業の概要				
理学療法士・作業療法士の臨床実習や就職後において必要な栄養学の知識、脳や運動器のMRI・CT・レントゲン画像の読影、救急救命について学習する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・内科疾患におけるリスク管理、栄養指導がわかる。</li> <li>・脳画像や運動器画像の正常画像の読影ができる。異常所見により予後を予測する。</li> <li>・患者に処方された薬の効用、副作用、リスク管理を理解する。</li> <li>・救急時の対応について理解する(AED含む)。</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	糖尿病の栄養学			
2	脳血管疾患の栄養学			
3	内科疾患における栄養学			
4	正常画像所見1	X-P, MRI, CT, エコーの正常画像の読影(運動器)		
5	正常画像所見2	X-P, MRI, CTの正常画像の読影(脳、内臓)		
6	疾患別画像所見1	運動器疾患(骨折、筋・靭帯断裂)		
7	正常画像所見2	脳血管疾患(脳梗塞、脳出血)部位と症状		
8	正常画像所見3	呼吸・循環器疾患		
9	薬理学1	リスク管理に必要な薬剤の知識1		
10	薬理学2	リスク管理に必要な薬剤の知識2		
11	薬理学3	リスク管理に必要な薬剤の知識3		
12	薬理学4	リスク管理に必要な薬剤の知識4		
13	救急救命1	AEDについて		
14	救急救命2	一次救命処置		
15	救急救命3	一次救命後の対応		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布		期末試験 小テスト・レポート	70.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション概論		理学療法科/1年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	木下僚介(実務経験あり)
授業の概要				
自己学習とグループワークを中心としたアクティブラーニングを通して、医療職に必要な心構え・学習態度を身につけるとともに、リハビリテーションについての基礎的な知識や考え方を学ぶ授業となる。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
知識：リハビリテーションの概念、定義を理解する リハビリテーションに必要な専門基礎学問を理解する 技術：自己学習やグループワークを通して医療職としての学び方を習得する 態度：専門職として必要な基本的態度、習慣について自らの行動規範を持ち、行動できる				
回	テーマ	内容		
1	リハビリテーションとは何か①	リハビリテーションの語源		
2	リハビリテーションとは何か②	事例を通して考えるリハビリテーション		
3	リハビリテーションの歴史	障害者の復権、ノーマライゼーション、自立生活運動		
4	障害の捉え方	ICIDHからICFへ		
5	障害受容	ヒトが病気や障がいを持ったとき		
6	障害者体験	障害者の視点を感じよう		
7	チーム医療	チーム医療の重要性と他職種連携の基本		
8	リハビリテーション専門職の役割①	理学療法士・作業療法士		
9	リハビリテーション専門職の役割②	その他の職種の役割		
10	生活とその人らしさ	ADLとQOL		
11	リハビリテーション関連法規	医療法、福祉六法、障害者総合支援法など		
12	リハビリテーションの様々な視点	人のしくみ、自助具。福祉用具、栄養		
13	回復段階によるリハビリテーション①	急性期・回復期		
14	回復段階によるリハビリテーション②	生活期		
15	リハビリテーション再考	まとめと復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
川手信行：リハビリテーション概論のいろは資料配布		期末試験 課題・レポート	60.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
公衆衛生学		理学療法科/4年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中山吉宣(実務経験有)
授業の概要				
人々の基本的な生活と人間のあり方、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全について学習する。【実務経験】保健所勤務(獣医師)				
授業終了時の到達目標				
理学療法士・作業療法士として、障害に対するリハビリテーションの担い手となるだけでなく、人が生きる全体像をとらえる視点を持ち、予防の概念に基づき、健康増進へ貢献できる医療人となる。				
回	テーマ	内容		
1	公衆衛生と健康の概念	公衆衛生と健康の概念		
2	疫学	疫学指標の算出、疫学研究と倫理		
3	保健統計	人口動態統計(出生、死産、婚姻、離婚、死亡、死因分類、)		
4	医の倫理と患者の人権	医の倫理と患者の人権		
5	終末期医療と死の概念	終末期医療と死の概念		
6	医療法と医療体制	医療法と医療体制		
7	社会保障と医療経済	社会保障と医療経済		
8	成人保健と健康増進	成人保健の現状と生活習慣病、リスク因子、予防対策		
9	母子保健	親子保健対策、関連法規、		
10	高齢者保健	高齢者と介護保険		
11	障害者福祉、精神保健福祉	精神保健の実際、健康関連行動		
12	感染症対策	感染症の流行状況、主たる感染症、感染症対策、検疫		
13	食品保健と栄養	食生活、食行動、食環境、身体活動と運動		
14	学校保健、産業保健	学校保健、産業保健		
15	環境保健、国際保健	環境衛生(生態系、地球希望の環境、公害、帰校、廃棄物処理、放射線)		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
公衆衛生がみえる: MEDIC MEDIA		期末試験	100.0%	

作成者:梶直美

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会保障論		理学療法科/4年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	梶直美(実務経験あり)
授業の概要				
本講義では、憲法25条生存権を核とし、医療保険とリハビリテーション・介護保険とリハビリテーションについての理解を深めることを目的とする。【実務経験：病院勤務】				
授業終了時の到達目標				
社会保障の目的について理解できる 社会保障制度について理解できる。				
回	テーマ	内容		
1	概論	社会保障とは		
2	社会保障制度	範囲と理念		
3	社会保険	構造		
4	社会扶助	構造		
5	国民年金	実態と近年の動向		
6	介護保険制度とリハビリテーション	特定疾病16種類の理解		
7	医療保険とリハビリテーション	施設基準と保険点数など		
8	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
多職種連携		理学療法科/2年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	西潟 央(実務経験あり)
授業の概要				
医療および地域リハビリテーションに関わる様々な職種との連携について学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアシステムについて理解する。</li> <li>・医療における他職種連携について理解する。</li> <li>・介護保険下での多職種連携について理解する。</li> </ul>				
回	テーマ	内 容		
1	地域包括ケアシステムについて			
2	地域ケア会議について			
3	ケアマネージャーについて			
4	MSWについて			
5	看護・介護との連携について考える	看護学生とのグループワーク		
6	看護・介護との連携について考える	看護学生とのグループワーク		
7	看護・介護との連携について考える	グループ発表		
8	看護・介護との連携について考える	グループ発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
スポーツ医学		理学療法科/1年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	布村 忠弘
授業の概要				
スポーツで起こる様々な医学的問題や疾病を学習する。				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
スポーツ医学の基礎的な知識を理解し、種々の分野の医学書を読むことができるようになる。				
回	テーマ	内容		
1	スポーツ医学の役割	スポーツ医学が扱う範囲を学習する。		
2	呼吸器	スポーツ選手に起こる呼吸器疾患を学習する。		
3	循環器	スポーツ選手に起こる循環器疾患を学習する。		
4	消化器	スポーツ選手に起こる消化器疾患を学習する。		
5	泌尿器	スポーツ選手に起こる泌尿器疾患を学習する。		
6	眼科	スポーツ選手に起こる眼科疾患を学習する。		
7	歯科	スポーツ選手に起こる歯科疾患を学習する。		
8	耳鼻咽喉科	スポーツ選手に起こる耳鼻咽喉科疾患を学習する。		
9	婦人科	スポーツ選手に起こる婦人科疾患を学習する。		
10	小児科	若年スポーツ選手に起こる小児科疾患を学習する。		
11	皮膚科	スポーツ選手に起こる皮膚科疾患を学習する。		
12	免疫と感染症	スポーツ選手に起こる免疫不全疾患・感染症を学習する。		
13	脳神経科	スポーツ選手に起こる脳神経科疾患・脳損傷・脊髄損傷を学習する。		
14	救急医学	スポーツ現場に必要な救急医学の知識を学習する。		
15	栄養学	スポーツ栄養学の基礎を学習する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布		期末試験	100.0%	

作成者:小島利彦

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
バイオメカニクス		理学療法科/2年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	選択	西潟・小島・他(実務経験者)
授業の概要				
バイオメカニクスの基礎的な考え方と手法を学修する。				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
スポーツ動作にみられる動きや力を定量的に分析するための手法を理解する。				
回	テーマ	内容		
1	バイオメカニクス総論	バイオメカニクスの目的や具体的な手法を学修する。		
2	モーションキャプチャー	モーションキャプチャーの仕組みと測定方法を学修する。		
3	フォースプレート	フォースプレートの仕組みと測定方法を学修する。		
4	筋電図	筋電図の仕組みと測定方法を学修する。		
5	身体モデル	身体モデルの概要とこれを用いた運動の分析方法を学修する。		
6	並進運動の力学	並進運動における力、加速度、速度、位置などの基本概念を学修する。		
7	回転運動の力学	回転運動におけるトルク、角加速度、角速度、位置などの基本概念を学修する。		
8	観察法と分析法	観察法と分析法についてを学修する。		
9	関節トルク・パワー(1)	関節トルク・パワーの計算方法を学修する。		
10	関節トルク・パワー(2)	関節トルク・パワーの計算方法を学修する。		
11	歩行	歩行動作の分析法とデータの解釈について学ぶ。		
12	走行	走動作の分析法とデータの解釈について学ぶ。		
13	跳躍	跳躍動作の分析法とデータの解釈について学ぶ。		
14	投動作	投動作の分析法とデータの解釈について学ぶ。		
15	押し動作	押し動作の分析法とデータの解釈について学ぶ。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
スポーツバイオメカニクス(はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ)		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
スポーツ生理学		理学療法科/2年	2023/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	選択	牛丸・小島・他(実務経験有)
授業の概要				
運動生理学・病理学(特に組織治療)について学び、測定機器を用いて演習を行う。				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
損傷した組織の回復過程を理解する。 運動の生理学的メカニズムを理解する。				
回	テーマ	内容		
1	組織治療総論	組織治療の概念と基本的な過程について学修する。		
2	骨	骨の損傷後の治療過程を学修する。		
3	軟骨	軟骨の損傷後の治療過程を学修する。		
4	靭帯・関節包	靭帯・関節包の損傷後の治療過程を学修する。		
5	神経	神経の損傷後の治療過程を学修する。		
6	筋	筋の損傷後の治療過程を学修する。		
7	腱	腱の損傷後の治療過程を学修する。		
8	縫合靭帯	縫合靭帯の損傷後の治療過程を学修する。		
9	再建靭帯	再建靭帯の損傷後の治療過程を学修する。		
10	運動生理学総論	運動生理学の基本的な概念を学修する。		
11	最大酸素摂取量	最大酸素摂取量の基本的な概念を学び、機器を用いて演習を行う。		
12	有酸素性作業閾値(AT)	有酸素性作業閾値(AT)の概念を学び、機器を用いて演習を行う。		
13	エネルギー供給機構	エネルギー供給機構の基本的な概念を学修する。		
14	筋の適応(筋組成)	筋の適応(筋組成)の基本的な概念を学び、機器を用いて演習を行う。		
15	神経の適応	神経の適応の基本的な概念を学修する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
1から学ぶスポーツ生理学【第2版】 資料配布		レポート作成	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法概論		理学療法科/1年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	西潟 央(実務経験あり)
授業の概要				
リハビリテーション概論で学んだリハビリテーション理念や実態、評価、治療、障害特性について 理学療法士はどのようにリハビリテーションを行っていくのか 理学療法士は理学療法を実際にどのように使っていくのかについて学ぶ <b>【実務経験】病院勤務</b>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士の業務および関連する社会制度が理解できる</li> <li>・各領域における理学療法士の役割について理解できる</li> </ul>				
回	テーマ	内 容		
1	理学療法概論 総論	オリエンテーション 理学療法士とは		
2	理学療法士の職能 1	病院		
3	理学療法士の職能 2	施設		
4	理学療法士の職能 3	教育・研究		
5	理学療法士の職能 4	その他・企業		
6	社会保険制度 1	医療保険制度		
7	社会保険制度 2	介護保険制度 意義 手続き		
8	社会保険制度 3	介護保険制度 介護度 サービスの種類		
9	健康寿命 1	総論		
10	健康寿命 2	メタボリックシンドローム		
11	健康寿命 3	ロコモティブシンドローム		
12	法律	理学療法士法・作業療法士法		
13	地域包括ケアシステム	意義および目的 地域の事例など		
14	リスクマネジメント	インシデント、感染管理		
15	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
理学療法概論テキスト第3版 南江堂 配布資料		期末試験 レポート 中間試験	50.0% 20.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
研究方法論Ⅰ(抄読)		理学療法科/2年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	西潟 央(実務経験あり)
授業の概要				
理学療法士が研究を行うことの意味と目的から始まり、具体的な研究法について学ぶ。研究する前段階であるレビューの作成までを行う。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士として研究する意義を学ぶことができる</li> <li>・文献を検索し、幾つかの文献をまとめるレビューを作成することができる</li> <li>・後期の研究方法論Ⅱで研究するための研究計画書作成の準備ができる</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	研究方法論で学ぶことを理解する なぜ理学療法士が研究法を学ぶのかを理解する		
2	先行研究を調べる	先行研究の探し方、調べ方を学ぶ		
3	研究報告・論文の構成	学術論文の構成や読み方を理解する		
4	エビデンス	エビデンスとは何かを理解する		
5	研究デザイン	研究デザインを知る		
6	診療ガイドライン 1	診療ガイドラインを知る		
7	診療ガイドライン 2	診療ガイドラインを検索してみる		
8	データ処理の方法 1	データのまとめ方(統計学の復習)		
9	データ処理の方法 2	量的変数		
10	データ処理の方法 3	質的変数		
11	レビューを作成 1	レビューとは何か、レビューを作成する目的		
12	レビューを作成 2	キーワード検索から文献をあつめる		
13	レビューを作成 3	キーワードの結びつきを考える		
14	レビューを作成 4	テーマをまとめる		
15	レビューを作成 5	複数の文献をまとめる		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
授業資料は適宜配布		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
研究方法論Ⅱ(方法)		理学療法科/2年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	西潟 央(実務経験あり)
授業の概要				
<p>医療専門家である理学療法士にとって、対象者の問題や治療課題を明確にして、改善・解決する能力を高めることは最大の責務である。また、理学療法士自身および理学療法学の発展に資するためには、日々の業務の中から問題意識を明確にして、それを検証し、怪傑への努力が求められる。研究方法論を通じて、科学的思考に基づいて真理を追究する姿勢を育成する。そのためには、理学療法士が研究を行うことの意義と目的から始まり、具体的な研究方法について学び、研究する段階である「研究計画書」の作成までを行う。</p> <p>【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法士として研究する意義を説明できる。</li> <li>2. 研究論文を読み、抄録用紙に記載し、まとめることができる。</li> <li>3. 抄読会を企画し、座長や口頭発表をすることができる。</li> <li>4. 研究デザインの種類を説明でき、倫理規定にそった研究計画書を作成できる。</li> </ol>				
回	テーマ	内容		
1	研究倫理指針とは	研究における倫理の意味づけを教授する。対象者・患者の倫理的配慮、利益相反について概説する。		
2	倫理指針①	実際に学会の倫理指針を確認しながら、条項の意味していることを明確に説明する。		
3	倫理指針②	ラット等の哺乳動物には動物倫理規定が低用されるが、通常の両生類は倫理規定はなが、背名の尊重に配慮する。		
4	抄読会(抄録用紙)	抄録用紙(規定用紙を配付)に記載し、発表する形態を提示する。		
5	抄読会(スライド)	文献抄読後に概要をpowerpointにまとめ、発表する形態を提示する。		
6	抄録用紙の記載①	各自が図書室の雑誌(研究論文)を読んで抄録用紙に記載する		
7	抄録用紙の記載②	各自が図書室の雑誌(研究論文)を読んで抄録用紙に記載する。		
8	抄読会(発表)	抄読した文献の発表を行う。(発表して資料の呈す津:電子データ)		
9	研究論文の執筆の仕方①	実際の研究内容を紹介し、研究論文の執筆の仕方を説明する。		
10	研究論文の執筆の仕方②	執筆の手順と執筆時の規定を確認する。		
11	研究計画書の作成の仕方	基本的な研究計画書の作成の仕方を教授する。		
12	研究計画書の作成①	各班で研究課題をきめ、研究領域の論文を収集する。		
13	研究計画書の作成②	研究方法の手順を票を作成する。		
14	研究計画書の作成③	「研究計画書」が倫理指針に沿った内容であることを確認し、倫理委員会に申請できる資料を作成する。提出は、紙面と電子データとする。		
15	研究ノートの記述 まとめ	臨床介入試験・動物実験・培養細胞実験の経過を第三者にも説明できるよう記載することの重要度で提示する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床運動学		理学療法科/3年	2023/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	高原 美恵(実務経験有)
授業の概要				
<p>バイオメカニクスから日常動作を考える          観察と分析を通じて動作を学習する          運動学の観点から正常歩行と異常歩行の違いについて知る          異常歩行の分類を学ぶ          疾患の特徴を調べ、なぜ異常歩行が起こるのかを調べる          【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>日常動作をバイオメカニクスの視点が考えることができる          観察、分析を通じ、動作を考えることができる          運動学の観点から正常な歩行動作と異常な歩行動作の違いを理解できる          異常歩行の分類を知り、模倣することができる          疾患の特徴を知り、なぜ異常歩行が起こるかを調べ、まとめることができる          疾患の特徴を知り、立ち上がり動作、起き上がり動作の異常動作を知ることができる</p>				
回	テーマ	内容		
1	臨床運動学とは？	臨床運動学についての基本 観察・動作分析・運動分析について		
2	動作分析のための評価方法	Functinal Reach test、Time UP and Go test他		
3	歩行分析①	正常歩行の復習		
4	歩行分析②	異常歩行の原因、分類		
5	バイオメカニクスの基本	てことモーメントの基本		
6	動作とバイオメカニクス	動作をバイオメカニクスで考える		
7	各種動作	立ち上がり動作		
8	各種動作	寝返り、起き上がり動作		
9	各種動作	評価チャート作成		
10	疾患別動作観察、動作分析	脳梗塞片麻痺患者の歩行、各種動作		
11	疾患別動作観察、動作分析	脳卒中片麻痺患者の歩行、各種動作		
12	疾患別動作観察、動作分析	変形性股関節症患者の歩行、各種動作		
13	疾患別動作観察、動作分析	腰部脊柱管狭窄症患者の歩行、各種動作		
14	疾患別動作観察、動作分析	変形性股関節症術後患者の歩行、各種動作		
15	まとめ	各種動作とバイオメカニクスの練習問題		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「動作のメカニズムがよくわかる実践！動作分析」上杉雅之監修、医歯薬出版(株)		期末試験 課題・レポート	60.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
言語聴覚療法概論		理学療法科/2年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	吉村・湯川・他(実務経験あり)
授業の概要				
本講義では、失語症や嚥下障害、構音障害のメカニズムについて学習する。また、リハビリテーションが難渋する高次脳機能障害についての知識と理解を深める。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
失語症や嚥下障害、構音障害のメカニズムが理解できる。 治療方法について理解できる。				
回	テーマ	内容		
1	概論1	言語聴覚療法とは		
2	概論2	高次脳機能障害とは		
3	認知症とは	病態・治療法		
4	CT、MRIのみかた	種々の画像		
5	知的機能検査	検査方法の紹介		
6	失語症、失行症の評価	SLTA、WAB		
7	失認症の評価	視覚失認、身体失認、触覚失認、聴覚失認		
8	認知症の評価	HDS-R、MMSE		
9	記憶の評価	記憶の種類と検査		
10	前頭葉機能の評価	FAB、BADs		
11	嚥下障害について1	嚥下のメカニズム		
12	嚥下障害について2	誤嚥		
13	嚥下障害について3	食事介助		
14	嚥下機能の評価	水のみテスト		
15	まとめ、振り返り	復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
『聴覚・言語・嚥下の基礎と障害』宮本健作 編著 プレーン出版 『失語症治療へのアプローチ』武田克彦 著 中外医学社		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法概論		理学療法科/2年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	白瀬・中川・梶・他(実務経験有)
授業の概要				
作業療法で用いる作業の意味を理解できる。 作業療法の領域を理解できる。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
作業療法を理解できる。				
回	テーマ	内容		
1	身体障害領域の作業療法1	概論		
2	身体障害領域の作業療法2	急性期から回復期における作業療法の実際		
3	発達障害領域の作業療法1			
4	発達障害領域の作業療法2			
5	精神障害領域の作業療法1			
6	精神障害領域の作業療法2			
7	地域における作業療法1			
8	地域における作業療法2			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法管理学Ⅰ (職業倫理・職場管理)		理学療法科/2年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	西潟 央(実務経験あり)
授業の概要				
理学療法士として勤務する臨床(病院・地域)、教育、研究領域における倫理、管理について、ディスカッションを含めながら理解を深める。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1. 理学療法の実施手順について理解し、説明できる。2. 理学療法士の専門職倫理の意義を理解し、説明できる。3. 職場の組織について理解し、説明できる。4. 職場管理(診療記録と書類管理)について理解し、説明できる。5. 理学療法実施時の安全管理や危機管理を理解し、実施できる。6. 理学療法機器の配置計画や管理について理解し、説明できる。7. 他の医療職種との業務調整、連携の重要性を理解し、説明できる。8. 職場倫理(ハラスメント)について理解し、説明できる。9. 医療保険制度、介護保険制度について理解し、説明できる。				
回	テーマ	内容		
1	管理の概念①	理学療法管理学の職業倫理と職場管理の概念と構造を教授する。		
2	管理の概念②	医学・医療の相違、医療と福祉の相違、哲学と倫理学と法律や道徳の相違などの語句の意味を説明する。		
3	理学療法士の専門職倫理の意義	「ヒポクラテスの誓い」から「PT協会の倫理規定」の経過と意義を説明する。		
4	理学療法士の職業倫理	対象者(患者)の権利・尊厳の意義を説明する。守秘義務、個人情報保護、インフォームド コンセント(アセント)の意義を説明する。		
5	理学療法業務の管理	医師の処方のもと理学療法を実施し、診療録を記載する義務があり、患者に対して守るべきモラルを教授する。		
6	理学療法士の職場管理	「理学療法士及び作業療法士法」と関連する法律などにより、医療専門職種と位置づけられていることを説明する。		
7	医療機能の分化とチーム医療	近代の医療機能が専門分化されてきているので、専門職連携・統合を目指すチーム医療(シンメディカル)が重要になってきていることを教授する。		
8	教育・研究の管理	高度の専門知識と技能及び倫理を持ち続けるよう、生涯教育と問題解決能力を高める必要性を説明する。研究倫理規定にも触れる。		
9	保健・医療・福祉を取り巻く諸制度とマネジメント	医療保険制度・介護保険制度を通して、理学療法を実施していることを紹介する。		
10	医療安全管理の重要性	医療専門職種として、理学療法室内や理学療法領域で使用している機器の保全・管理は責務であることを教授する。		
11	疾患別・病期別の理学療法マネジメント	いかなる疾患であれ、理学療法を実施するには障害像を把握することが重要である。そのうえで、疾患が有する特徴的なリスクを回避しながら理学療法を遂行することが重要であることを教授する。		
12	急性期病院での理学療法マネジメント	疾患の急性期は病態が安定せず、患者の不安や意識清明でない中の理学療法も遂行されるので、細心の注意を払うことの重要性を具体例を通して解説する。		
13	回復期病院での理学療法マネジメント	回復期リハビリテーション病棟での理学療法は、在宅復帰や社会参加を目指して活動能力の向上を支援する上での注意点を具体例を通して解説する。		
14	生活期を支援する理学療法マネジメント(介護老人保健施設等)	疾患特有の合併症に向き合いながら社会参加をしている障がい者や高度の障害により在宅医療を受けながら社会参加している者への対応の仕方を具体例を通して解説する。		
15	理学療法を専攻する学生へのメッセージ	臨床・教育・研究領域での活動やエピソードを紹介し、学生と臨床実習や就職に関することを討論する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜配布		小テスト 課題レポート	30.0% 70.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法管理学Ⅱ (保険制度)		理学療法科/3年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	西潟 央(実務経験あり)
授業の概要				
社会保険制度の柱である医療保険、介護保険の仕組みを復習し、その中での理学療法士の役割、その実際場面での他職種連携や地域連携の理解を主とし事例で議論をしていく。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1: 医療保険制度、介護保険制度について理解し、説明できる。 2: 他職種連携で理学療法士に求められる役割が理解できる 3: 地域連携さらに介護予防の実際を理解できる 4: 地域理学療法実習に向けた取り組みが理解できる 5: 予防(1次~3次)まで理解し、その中での理学療法士の役割が理解できる				
	テーマ	内 容		
1	社会保険制度 1	総論 社会保障と財政		
2	社会保険制度 2	医療保険		
3	社会保険制度 3	介護保険		
4	社会保険制度 4	障害者・障害児サービスと就労支援		
5	社会保険制度 5	予防事業、地域ケア会議		
6	地域包括ケアシステム 1	目的や意義		
7	地域包括ケアシステム 2	地域の事例		
8	他職種連携と地域連携 1	連携すべき他職種 事例検討		
9	他職種連携と地域連携 2	他職種連携のありかた 事例検討		
10	他職種連携と地域連携 3	他職種連携の実際 事例検討		
11	他職種連携と地域連携 4	地域・介護現場における療法士の役割 事例検討		
12	他職種連携と地域連携 5	地域・介護現場の実際や工夫 事例検討		
13	予防 1	地域での予防事業やその意義を理解する 事例		
14	予防 2	在宅生活での虚弱高齢者や活動性が低い対象者の身体および精神機能を学び、重症化予防を理解する 事例検討		
15	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料を適宜配布		課題・レポート提出	100.0%	

作成者:杉本はるか

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
評価測定法Ⅰ(総論)		理学療法科/1年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	杉本はるか(実務経験あり)
授業の概要				
評価の意義、目的を知る バイタルサインについて知り、実施する。 形態測定の意義を知り、実施する。 <b>【実務経験】</b> 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の意義、目的を知り理解する。</li> <li>・バイタルサインについてその数値の示す意味を理解し、実施できる。</li> <li>・メジャーを用いて四肢長・周径測定ができる。</li> <li>・表在、深部感覚検査を器具を用いてできる。</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	総論	理学療法評価の総論 目的 面接技法		
2	バイタルサイン 1	脈拍、血圧について		
3	バイタルサイン 2	酸素飽和度、呼吸数など		
4	感覚 1	表在感覚		
5	感覚 2	深部感覚		
6	形態測定	概論		
7	形態測定	上肢周径①		
8	形態測定	上肢周径②		
9	形態測定	下肢周径①		
10	形態測定	下肢周径②		
11	形態測定	上肢長①		
12	形態測定	上腕長②		
13	形態測定	下肢長①		
14	形態測定	下肢長②		
15	形態測定	形態測定まとめ②		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「理学療法評価学」望月 久著 医歯薬出版株式会社		期末試験 実技試験	50.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
評価測定法Ⅱ(基礎)		理学療法科/1年	2023/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	山本政孝(実務経験有)
授業の概要				
各関節の可動域をゴニオメーターを用いて測定する。 関節可動域制限のある場合の動作を予測する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴニオメーターを用い、日本整形外科学会・日本リハビリテーション医学会による「関節可動域表示ならびに測定法」にそって測定し、記録できる。</li> <li>・正常可動域を理解する。</li> <li>・関節可動域の異常について考察できる。</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	関節可動域検査の概要	目的、運動方向、表示法、ゴニオメーター、activeとpassive、		
2	ROM-T(上肢)	肩関節①		
3	ROM-T(上肢)	肩関節②		
4	ROM-T(上肢)	肩甲帯		
5	ROM-T(上肢)	肘関節・前腕		
6	ROM-T(上肢)	手関節・手指		
7	ROM-T(下肢)	股関節①		
8	ROM-T(下肢)	股関節②		
9	ROM-T(下肢)	膝関節・足関節		
10	ROM-T(下肢)	足関節		
11	ROM-T(下肢)	下肢のまとめ		
12	ROM-T(体幹)	頸部		
13	ROM-T(体幹)	体幹		
14	ROM-Tのまとめ	上肢・下肢・体幹 別法の確認		
15	拘縮と強直、変形	拘縮と強直、変形		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「理学療法評価学」松澤正・江口勝彦 著 ゴニオメーター		期末試験 実習・実技評価	60.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
評価測定法Ⅲ		理学療法科/2年	2023/前期	授業・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	山本政孝(実務経験有)
授業の概要				
理学療法士として使う頻度の高い検査方法なので、検査の意義、検査方法、エコー画像の原理、画像紹介、実技を主として進めていく。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つ一つの検査の意義・方法ができる。</li> <li>・筋の起始停止・支配神経・髓節を理解する。</li> <li>・筋力と動作の関連を考察する。</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	徒手筋力検査法	筋力測定概論		
2	徒手筋力検査法	肩関節運動の筋肉 筋力測定①		
3	徒手筋力検査法	肩関節運動の筋肉 筋力測定②		
4	徒手筋力検査法	肩関節運動の筋肉 筋力測定③		
5	徒手筋力検査法	肩甲帯運動の筋肉 筋力測定①		
6	徒手筋力検査法	肩甲帯運動の筋肉 筋力測定②		
7	徒手筋力検査法	肘、前腕、手関節運動の筋肉 筋力測定①		
8	徒手筋力検査法	肘、前腕、手関節運動の筋肉 筋力測定②		
9	徒手筋力検査法	上肢練習		
10	徒手筋力検査法	股関節運動の筋肉 筋力測定①		
11	徒手筋力検査法	股関節運動の筋肉 筋力測定②		
12	徒手筋力検査法	股関節運動の筋肉 筋力測定③		
13	徒手筋力検査法	膝、足関節、運動の筋肉 筋力測定①		
14	徒手筋力検査法	膝、足関節、運動の筋肉 筋力測定②		
15	徒手筋力検査法	下肢練習		

回	テ ー マ	内 容		
16	徒手筋力検査法	頭頸部 筋力測定①		
17	徒手筋力検査法	頭頸部 筋力測定②		
18	徒手筋力検査法	頭頸部 筋力測定③		
19	徒手筋力検査法	体幹 筋力測定①		
20	徒手筋力検査法	体幹 筋力測定②		
21	徒手筋力検査法	体幹 筋力測定③		
22	徒手筋力検査法	顔面の筋		
23	筋緊張検査	筋緊張とは？ 筋緊張検査 筋緊張検査の解釈の仕方		
24	協調性検査	協調性検査の意義、協調性検査 バランス検査		
25	反射検査	深部腱反射・表在反射		
26	反射検査	病的反射 反射検査の解釈の仕方		
27	バランス検査	バランス検査の概論		
28	バランス検査	バランス検査の実技		
29	超音波画像	理学療法評価における超音波画像の意義について		
30	超音波画像	各関節の超音波画像の特徴について、解剖と超音波画像との対比		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
理学療法評価学 改定第6版 金原出版： 松澤 正		期末試験 実習・実技評価	60.0% 40.0%	・服装含む身なりに気をつけること。 ・試験日は前もって連絡する。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
評価測定法Ⅳ		理学療法科/2年	2023/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	山本・他(実務経験有)
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>片麻痺機能検査や知覚検査の方法について実技を中心に学習する。</li> <li>各疾患特有の症状に対する検査測定を行い、検査結果について学ぶ。</li> </ul> <b>【実務経験】</b> 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>片麻痺機能検査を行うことができる。</li> <li>知覚検査を行うことができる。</li> <li>運動耐用度の検査やアンダーソン・土肥の基準を理解する。</li> <li>疾患の特徴を捉えた検査を行うことができる。</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	片麻痺機能検査	連合反応と協働運動、brunnstrom testのステージ		
2	片麻痺機能検査	Brunnstrom test (上肢)		
3	片麻痺機能検査	Brunnstrom test (手指)		
4	片麻痺機能検査	Brunnstrom test (下肢)		
5	知覚検査(表在感覚)	触覚、痛覚、温度覚		
6	知覚検査(深部感覚・複合感覚)	関節覚、位置覚、運動覚 2点識別覚、皮膚書字検査、立体覚		
7	運動耐用度の検査	運動負荷試験 ボルグスケール		
8	リスク管理	アンダーソン・土肥の基準		
9	疾患別評価①脳卒中片麻痺	評価の実際・リスク評価など		
10	疾患別評価①脳卒中片麻痺	評価の実際・リスク評価など		
11	疾患別評価①脳卒中片麻痺	評価の実際・リスク評価など		
12	疾患別評価①脳卒中片麻痺	評価の実際・リスク評価など		
13	疾患別評価②SCD	評価の実際・リスク評価など		
14	疾患別評価②SCD	評価の実際・リスク評価など		
15	疾患別評価②SCD	評価の実際・リスク評価など		

回	テーマ	内 容		
16	疾患別評価②SCD	評価の実際・リスク評価など		
17	疾患別評価③パーキンソン病	評価の実際・リスク評価など		
18	疾患別評価③パーキンソン病	評価の実際・リスク評価など		
19	疾患別評価③パーキンソン病	評価の実際・リスク評価など		
20	疾患別評価③パーキンソン病	評価の実際・リスク評価など		
21	疾患別評価④頸椎・腰椎椎間板ヘルニア	評価の実際・リスク評価など		
22	疾患別評価④頸椎・腰椎椎間板ヘルニア	評価の実際・リスク評価など		
23	疾患別評価④頸椎・腰椎椎間板ヘルニア	評価の実際・リスク評価など		
24	疾患別評価④頸椎・腰椎椎間板ヘルニア	評価の実際・リスク評価など		
25	疾患別評価⑤COPD	評価の実際・リスク評価など		
26	疾患別評価⑤COPD	評価の実際・リスク評価など		
27	疾患別評価⑤COPD	評価の実際・リスク評価など		
28	疾患別評価⑤COPD	評価の実際・リスク評価など		
29	疾患別評価⑥心筋梗塞	評価の実際・リスク評価など		
30	疾患別評価⑥心筋梗塞	評価の実際・リスク評価など		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「理学療法評価学」松澤 正 著 金原出版株式会社		実習・実技評価 期末試験	60.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
スポーツ外傷評価学		理学療法科/2年	2023/後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	選択	高原・西潟(実務経験者)
授業の概要				
全身のスポーツ外傷の診断学と評価法について概説する。				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
全身のスポーツ外傷の診断学と評価法について理解し、治療法の学習を開始できる。				
回	テーマ	内容		
1	スポーツ外傷学評価学総論	スポーツ外傷評価学の目的、範囲、内容について学習する。		
2	評価法の基礎	スポーツ外傷の評価の基礎的な手順と考え方、実施法を学習する。		
3	脊椎	脊椎のスポーツ外傷の評価法を学習する。		
4	頸椎	頸椎のスポーツ外傷の評価法を学習する。		
5	胸椎・胸郭	胸椎・胸郭のスポーツ外傷の評価法を学習する。		
6	腰椎	腰椎のスポーツ外傷の評価法を学習する。		
7	骨盤	骨盤のスポーツ外傷の評価法を学習する。		
8	股関節	股関節のスポーツ外傷の評価法を学習する。		
9	膝関節	膝関節のスポーツ外傷の評価法を学習する。		
10	足関節	足関節のスポーツ外傷の評価法を学習する。		
11	足部	足部のスポーツ外傷の評価法を学習する。		
12	肩関節	肩関節のスポーツ外傷の評価法を学習する。		
13	肘関節	肘関節のスポーツ外傷の評価法を学習する。		
14	前腕	前腕のスポーツ外傷の評価法を学習する。		
15	手関節	手関節のスポーツ外傷の評価法を学習する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動療法Ⅰ(基礎)		理学療法科/2年	2023/前期	講義(演習も含む)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	山本政孝(実務経験あり)
授業の概要				
理学療法士が現場で対応することが多い、変形性膝関節症、大腿骨頸部骨折、脳血管障害の実際の症例を踏まえながら、概要を把握し、各障害に対する運動療法の演習を行う 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
知識: 疾患概要と障害に対する運動療法を理解する 技術: 障害に対する評価、基礎治療ができる 態度: 専門技術を学ぼうとする姿勢を身につけることができる				
回	テーマ	内容		
1	運動療法の歴史・運動療法とは何か	運動療法の歴史、運動療法の定義・目的・対象・種類・基本的な方法について。		
2	関節の構造と運動	関節の分類、滑膜性関節の構造、関節の機能、関節の運動様式、関節と筋収縮、関節運動の制限について。		
3	筋と筋収縮	骨格筋の構造、筋収縮のエネルギー、張力からみた収縮特性について。		
4	随意運動と運動制御の生理	随意運動とは何か、随意運動のメカニズム、運動を制御する神経路、脳による運動制御について。		
5	運動制御と運動学習①	運動制御、身体運動制御、随意運動発現のメカニズム、姿勢制御のメカニズムについて。		
6	運動制御と運動学習②	運動学習、運動学習のメカニズム、運動学習を促進するための構成、運動制御・運動学習の臨床応用について。		
7	運動と循環①	循環器系の役割、運動時の循環器系の適応、加齢と安静臥床が与える影響について。		
8	運動と循環②	有酸素トレーニングと循環機能、運動の種類と血圧反応について。		
9	神経系①	脳の可塑性、シナプスのシグナル調節、運動と神経の可塑性、脳損傷後の可塑的变化、末梢神経の構造・病態生理について。		
10	神経系②	脳の可塑性、シナプスのシグナル調節、運動と神経の可塑性、脳損傷後の可塑的变化、末梢神経の構造・病態生理について。		
11	協調性運動①	協調性運動とは、協調性運動に関する小脳の働き、運動失調について。		
12	協調性運動②	協調性運動障害に対する運動療法、協調性運動障害に対する運動療法の留意点について。		
13	脳のシステム障害と運動療法①	脳の繊維連絡と意義について。		
14	脳のシステム障害と運動療法②	主な脳のシステム障害と運動療法について。		
15	脳のシステム障害と運動療法③	脳のシステム障害のまとめ。		

回	テ ー マ	内 容		
16	運動と呼吸①	呼吸の役割, 呼吸のメカニズムについて.		
17	運動と呼吸②	運動負荷に伴う正常な呼吸応答とその調節, 呼吸機能に影響する要因について.		
18	運動と代謝①	運動と代謝のメカニズム, 運動と代謝調節について.		
19	運動と代謝②	代謝からみた運動, 運動と代謝の評価について.		
20	組織の病態生理と修復-運動器系-①	骨, 軟骨, 靭帯について.		
21	組織の病態生理と修復-運動器系-②	靭帯損傷, 腱損傷, 筋損傷, 関節拘縮, 不動と運動の影響について.		
22	基本的な運動療法 1 関節可動域運動①	関節可動域運動とは, 関節可動域の制限因子について.		
23	基本的な運動療法 1 関節可動域運動②	関節可動域運動の種類と目的について.		
24	基本的な運動療法 2 筋力増強運動①	筋力発生概念, 筋力低下概念, 筋力増強運動概念について.		
25	基本的な運動療法 2 筋力増強運動②	筋力に影響する力学的・生理学的要因, 筋力増強運動を行うために必要な基礎知識について.		
26	基本的な運動療法 1 筋力増強運動③	筋持久力増強と疲労との関係, closed kinetic chainについて.		
27	基本的な運動療法 1 持久力増強運動①	持久力概念, リハビリテーションからみた持久力, 持久力の評価について.		
28	基本的な運動療法 1 持久力増強運動②	持久力増強運動, 治療としての運動耐容能強化について.		
29	痛みに対する運動療法①	痛みの定義と要因, 急性疼痛と慢性疼痛について.		
30	痛みに対する運動療法②	筋肉痛と関節痛, 関節構造体の痛み, 痛みに対する運動療法について.		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学 運動療法学総論 第4版		中間試験 期末試験	50.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動療法Ⅱ (応用)		理学療法科/2年	2023/後期	講義 (演習も含む)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位 (60時間)	必須	山本政孝 (実務経験あり)
授業の概要				
呼吸障害、循環障害、代謝障害、嚥下障害、姿勢障害、感覚障害、末梢神経障害、中枢神経障害、協調性障害、バランス障害、発達障害、高次脳機能障害の原因を理解し、それに対する運動療法を学習する 【実務経験】 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>呼吸障害、循環障害、代謝障害、嚥下障害、姿勢障害、感覚障害、末梢神経障害、中枢神経障害、協調性障害、バランス障害、発達障害、高次脳機能障害の原因を理解できる</li> <li>呼吸障害、循環障害、代謝障害、嚥下障害、姿勢障害、感覚障害、末梢神経障害、中枢神経障害、協調性障害、バランス障害、発達障害、高次脳機能障害に対する評価・治療技術を選択し施行できる</li> </ul>				
回	テーマ	内 容		
1	呼吸障害 概論	呼吸器の解剖生理 呼吸障害 分類・評価・治療		
2	呼吸障害に対する運動療法	運動療法各論		
3	循環障害 概論	循環器の解剖生理 循環障害 分類・評価・治療		
4	循環障害に対する運動療法	運動療法各論		
5	代謝障害 概論	代謝の解剖生理 代謝障害 分類・評価・治療		
6	代謝障害に対する運動療法	運動療法各論		
7	嚥下機能障害 概論	嚥下の解剖生理 嚥下機能障害 分類・評価・治療		
8	嚥下障害に対する運動療法	運動療法各論		
9	疼痛 概論	疼痛の解剖生理 疼痛 分類・評価・治療		
10	疼痛に対する運動療法	運動療法各論		
11	感覚障害 概論	感覚器の解剖生理 感覚障害 分類・評価・治療		
12	感覚障害に対する運動療法	運動療法各論		
13	バランス障害 概論	バランス 解剖生理 バランス障害 分類・評価・治療		
14	バランス障害に対する運動療法	運動療法各論		
15	協調性運動障害 概論	協調性運動 解剖生理 協調性運動障害 分類・評価・治療		

回	テ ー マ	内 容		
16	協調性運動障害に対する運動療法	運動療法各論		
17	中枢神経障害 概論	中枢神経 解剖生理 中枢神経障害 分類・評価・治療		
18	中枢神経障害に対する運動療法	運動療法各論		
19	末梢神経障害 概論	末梢神経 解剖生理 末梢神経障害 分類・評価・治療		
20	末梢神経障害に対する運動療法	運動療法各論		
21	姿勢障害 概論	姿勢 解剖生理 姿勢障害 分類・評価・治療		
22	姿勢障害に対する運動療法	運動療法各論		
23	歩行障害 概論	歩行 解剖生理 歩行障害 分類・評価・治療		
24	歩行障害に対する運動療法	運動療法各論		
25	発達障害 概論	発達 解剖生理 発達障害 分類・評価・治療		
26	発達障害に対する運動療法	運動療法各論		
27	高次脳機能障害 概論	高次脳機能障害 高次脳機能障害 分類・評価・治療		
28	高次脳機能障害に対する運動療法	運動療法各論		
29	グループ発表	各障害に対する評価から治療までのデモを実施		
30	グループ発表	各障害に対する評価から治療までのデモを実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教科書 運動療法学 障害別アプローチの理論と 実際 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総 論運動器系 第3版 筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版		実習・実技評価 期末試験	60.0% 40.0%	演習が多くなります。実際の現場を想定してそれに相応しい身だしなみで参加することが望ましい。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
物理療法Ⅰ(温熱・寒冷・超音波・光線・牽引)		理学療法科/1年	2023/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	高原 美恵(実務経験有)
授業の概要				
疼痛の生理学 可動域制限のメカニズム 物理療法の基礎 物理療法の適応、効果、禁忌を学ぶ 物理療法機器の使用方法を学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
疼痛の生理学を理解する 可動域制限のメカニズムを理解する 物理療法の基本、原理を理解する 物理療法の適応、効果、禁忌を理解する 物理療法機器の使用方法を理解する				
回	テーマ	内 容		
1	疼痛	疼痛の生理学		
2	可動域制限	可動域制限のメカニズム		
3	温熱療法①	温熱療法(伝導熱)の基本、原理 伝導熱:ホットパック、パラフィン浴		
4	温熱療法②	温熱療法(輻射熱)の基本、原理 輻射熱:赤外線療法		
5	温熱療法③	温熱療法(エネルギー変換熱)の基本、原理 エネルギー変換熱:超短波療法、極超短波療法		
6	寒冷療法	寒冷療法の基本、原理 寒冷療法:アイスパック、冷水浴、コールドスプレー		
7	超音波療法①	超音波療法の基本、原理 超音波機器、超音波診断装置		
8	超音波療法② 実習	超音波機器の実演、体験		
9	光線療法①	光線療法の基本、原理 紫外線療法、レーザー療法		
10	牽引療法	牽引療法の基本、原理(デルマトーム含む) 自重牽引、牽引療法機器		
11	グループ課題①	物理療法機器の使用方法を学ぶ 目的、効果、禁忌を学ぶ		
12	グループ課題②	物理療法機器の使用手法資料作成		
13	グループ発表①	物理療法機器の使用手法、目的、効果、禁忌など グループ発表		
14	グループ発表②	グループ発表		
15	物理療法機器の使用体験	物理療法使用体験、演習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「エビデンスから身につける物理療法」羊土社		確認テスト 課題・レポート 期末試験	10.0% 20.0% 70.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
物理療法Ⅱ		理学療法科/2年	2023/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	高原 美恵(実務経験有)

## 授業の概要

物理療法の基礎(電気療法、水療法を中心に)  
 物理療法の効果と禁忌  
 物理療法機器の使用方法  
 疾患に関連させた物理療法について調べ、発表する。  
 【実務経験】病院勤務

## 授業終了時の到達目標

物理療法の基礎を理解する  
 物理療法の効果と禁忌を理解する。  
 物理療法機器の使用方法を理解し、発表できる。

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の進め方、物理療法の実際(現状)、導入
2	電気刺激療法①	電気刺激療法の基本、原理
3	電気刺激療法②	経皮的神経電気刺激、干渉波 目的、効果、禁忌
4	電気刺激療法③	神経筋電気刺激 目的、効果、禁忌
5	電気刺激療法④	機能的電気刺激 目的、効果、禁忌
6	電気刺激療法⑤	電気刺激療法機器の使用方法、使用体験
7	水療法①	水の特性、作用 水療法の目的、効果、禁忌
8	水療法②	水療法機器の使用方法、使用体験
9	復習①	寒冷療法、牽引療法
10	復習②	光線療法、温熱療法
11	グループ課題①	グループ分け、グループ課題取り組み
12	グループ課題②	グループ課題取り組み
13	グループ発表①	グループ発表
14	グループ発表②	グループ発表
15	まとめ	物理療法の活用方法

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
エビデンスから身につける物理療法：羊土社	確認テスト 課題・レポート 実技試験 期末試験	10.0% 20.0% 10.0% 60.0%	※実技試験が実施できない場合は、筆記試験を70.0%とする。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
義肢学		理学療法科/2年	2023/後期	講義(演習も含む)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	長谷川丈剛(実務経験あり)
授業の概要				
本講義では、切断と義肢について基礎理論から適合技術、日常生活の指導に至るまで教授する。 【実務経験】製作所勤務				
授業終了時の到達目標				
切断に対応した義肢が選択できる。 義肢を生活上で使用する上での注意点を理解することができる。				
回	テーマ	内容		
1	概要	切断と義肢の歴史		
2	切断術	術式		
3	大腿義足①	大腿義足の名称、ソケット		
4	大腿義足②	膝継手、足継手		
5	大腿義足③	チェックアウト		
6	大腿義足④	適応基準		
7	下腿義足①	下腿義足の名称、ソケット		
8	下腿義足②	足継手		
9	下腿義足③	チェックアウト		
10	下腿義足④	適応基準		
11	股義足①	股義足の名称、ソケット		
12	股義足②	チェックアウト		
13	サイム～足部義足	チェックアウト		
14	術直後義肢装着法	チェックアウト		
15	まとめ	復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
『義肢装具学』千住秀明 監修 神陵文庫 『下肢切断の理学療法』細田多穂 編著 医歯薬出版 『義肢学』澤村誠志 編 医歯薬出版		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
装具学		理学療法科/2年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中川・竹中(実務経験有)

装具の定義、目的、原理などについて学んだ後、構成する部品、装具の種類、適合判定について学習する。【実務経験】病院勤務

## 授業終了時の到達目標

装具の分類、機能、目的について述べる事が出来る。  
疾患や対象者に合った装具を選定および作製できる。

回	テーマ	内容
1	装具学総論・下肢装具の構成部品とチェックアウト	装具の目的、機能、対象疾患、分類、3点固定の原理 装具作成の流れ 下肢装具の代表的な構成部品の名称と機能特徴 基本的なチェックアウトについて
2	足継手の制御機構	足継手の種類と機構 足継手による足部関節の制限・制御メカニズム
3	脳卒中片麻痺の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて
4	対麻痺の装具	装具の名称と残存機能レベルに応じた適応について 装具の機能と特徴について
5	整形外科的装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて
6	頸椎疾患・胸腰椎疾患の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて
7	靴型装具、車椅子・杖 リハロボット、介護ロボット	靴型装具の基本構造と機能特徴とメカニズムについて 車椅子・杖の種類と特徴 各部位の名称について リハ・介護分野のロボティクスについて
8	脊椎側彎症の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて
9	末梢神経障害の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて
10	小児疾患の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて
11	関節リウマチの装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて
12	装具使用中の歩行分析①	装具使用中の歩行分析、装具の調整について学ぶ
13	装具使用中の歩行分析②	装具使用中の歩行分析、装具の調整について学ぶ
14	装具使用中の歩行分析③	装具使用中の歩行分析、装具の調整について学ぶ 国家試験問題の復習
15	義肢装具の給付制度	義肢装具の給付制度の種類と概要について理解する 治療用(医療用)、構成用義肢装具における費用の申請方法について理解する

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
「PT・OTビジュアルテキスト義肢装具学第2版」高田治実 監修 羊土社	期末試験	100.0%	教科書は必ず持参する 歩行分析においては、実習着を着用すること。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
日常生活活動Ⅰ(基礎)		理学療法科/1年	2023/前期	授業・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	竹中誠(実務経験有)
授業の概要				
ADLとはなにか?福祉用具や車いすや歩行器、杖などの歩行補助具について使い方を学ぶ。 障害者・高齢者用体験グッズを装着し、日常生活を体験をする。 基本動作について学ぶ。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ADLと基本動作について理解する。</li> <li>・杖や車椅子の名称や使用方法、介助方法を獲得する。</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	ADL概論	ADLについて		
2	福祉用具	福祉用具の種類、対象疾患、使用方法		
3	松葉杖の使い方①	松葉杖の処方、歩行		
4	松葉杖の使い方②	松葉杖の立ち座り、階段昇降		
5	杖の処方①	杖の種類、処方		
6	杖の処方②	杖での歩行、階段		
7	車椅子の処方	車椅子の種類、各部の名称、処方		
8	車椅子移動	車椅子の駆動、介助法、歩行器		
9	歩行補助具の屋外体験①	松葉杖、T字杖、シルバーカーなどを屋外で体験 (歩道、横断歩道、歩道橋など)		
10	歩行補助具の屋外体験②	松葉杖、T字杖、シルバーカーなどを屋外で体験 (歩道、横断歩道、歩道橋など)		
11	介護・リハロボットとADL	在宅で使われている介護・リハロボットの紹介		
12	障害者・高齢者のADL	障害者・高齢者体験グッズを装着してのADL体験		
13	起居動作①	寝返り・起き上がり		
14	起居動作	端坐位からの立ち上がり・立ち座り		
15	起居動作③	床からの立ち上がり、立ち座り		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
日常生活活動テキスト 改定第3版 細田多穂 監修		期末試験 実習・実技評価	60.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
日常生活活動Ⅱ(応用)		理学療法科/2年	2023/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	山本政孝(実務経験あり)
授業の概要				
<p>正常動作の起居動作についてGWにて分析します。          そのあと、各代表疾患の特徴を踏まえてADL指導のポイントと同時に起居動作指導方法の検討、介助方法の検討と体系的に学習します。  <b>【実務経験】病院勤務</b></p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・正常動作を知る。</li> <li>・正常動作と各種疾患の典型例との違いを理解する。</li> <li>・各種疾患の典型動作例を理解し、ADL指導のポイントを理解する。</li> <li>・移乗動作の介助方法を習得する。</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	動作分析総論	姿勢動作の観察ポイント		
2	正常動作分析	寝返り		
3		起き上がり		
4		起居動作(背臥位~端坐位) 立ち上がり、移乗動作		
5	脳卒中片麻痺動作分析	起居動作		
6		立ち上がり、移乗動作		
7	代表的疾患(脳卒中片麻痺患者例)	更衣動作 起居動作方法		
8	代表的疾患(脊髄損傷上位頸髄レベル患者例)	更衣動作 起居動作方法		
9	代表的疾患(脊髄損傷下位頸髄レベル患者例)	更衣動作 起居動作方法		
10	代表的疾患(脊髄損傷胸腰髄レベル患者例)	更衣動作 起居動作方法		
11	代表的疾患(リウマチ、膝OAの患者例)	更衣動作 起居動作方法		
12	代表的疾患(頸部骨折患者例①)	更衣動作、起居動作方法①		
13	代表的疾患(頸部骨折患者例②)	更衣動作、起居動作方法②		
14	大腿切断患者例 高齢者患者例 移乗動作の介助方法	ADL指導のポイント 疾患別移乗動作の介助方法		
15	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「日常生活活動学テキスト」細田多穂 監 南江堂 「症例動作分析」隈元 庸夫 監修 ヒューマンプレス		課題・レポート 確認テスト	10.0% 90.0%	班ごとに正常動作 分析レポート課題 を課すので、授業 で提示する提出期 限を守り、提出す ること。必ず班員 全員で協力して課 題に臨むこと。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学Ⅰ-1 (整形)		理学療法科/3年	2023/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位 (90時間)	必須	高原、西潟、他 (実務経験有)
授業の概要				
<p>整形外科疾患の基本を知り、評価、治療法を学ぶ            基本的疾患から評価、治療法を学び、治療計画を立てられるよう課題に取り組む            治療計画を立てたうえで実践できるように実技練習を実施する            症例検討を通じて実践的に考える練習をし、SOAP作成を実施する            【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>整形外科疾患の基本を知り、評価、治療を知ることができる            基本的疾患から評価、治療法を学んだうえで、治療計画を立てることができる            治療計画を立てたうえで実践できる            症例検討を通じて実践的に考え、SOAP作成を実施できる</p>				
回	テーマ	内容		
1	整形外科疾患総論	整形外科疾患の考え方		
2	整形外科画像の基本①	MRI、CT、X線、Echoについて		
3	整形外科画像の基本②	課題解答		
4	症例レポート、SOAP作成	レポート・SOAPの作成方法		
5	肩関節疾患①	肩関節疾患とは？ 保存療法と手術療法		
6	肩関節疾患②	肩関節疾患の評価・治療		
7	腰部疾患①	腰部疾患とは？ 保存療法と手術療法		
8	腰部疾患②	腰部疾患の評価・治療		
9	膝関節疾患①	膝関節疾患とは？ 保存療法と手術療法		
10	膝関節疾患②	膝関節疾患の評価・治療		
11	足部疾患①	足部疾患とは？ 保存療法と手術療法		
12	足部疾患②	足部疾患の評価・治療		
13	事例課題①			
14	事例課題②			
15	事例課題③			

回	テ ー マ	内 容
16	切断（義足）①	
17	切断（義足）②	
18	大腿骨頸部骨折①	
19	大腿骨頸部骨折②	
20	脊髄損傷①	
21	脊髄損傷②	
22	骨粗鬆症と胸腰椎圧迫骨折	
23	変形性膝関節症①	
24	変形性膝関節症②	
25	変形性股関節症①	
26	変形性股関節症②	
27	熱傷	
28	事例課題④	
29	事例課題⑤	
30	事例課題⑥	
31	深部静脈血栓症・肺塞栓症	
32	起立性低血圧	
33	筋力トレーニング方法	なぜセッティングは必要なのか
34	症例紹介・検討①	症例を通じて、理学療法の考え方や実践を学ぶ
35	症例紹介・検討②	

回	テ ー マ	内 容		
36	症例紹介・検討③			
37	症例紹介・検討④			
38	症例紹介・検討⑤			
39	症例紹介・検討⑥			
40	症例紹介・検討⑦			
41	症例紹介・検討⑧			
42	症例紹介・検討⑨			
43	国家試験問題①	国家試験問題の課題・解答		
44	国家試験問題②	国家試験問題の課題・解答		
45	まとめ	各種まとめ		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	「リハビリに直結する！運動器画像の見かた」羊土社	期末試験 課題・レポート	50.0% 50.0%	※実技試験は困難なため、課題割合を増加する。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学II-1 (神経)		理学療法科/3年	2023/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位 (90時間)	必須	竹中・他 (実務経験あり)
授業の概要				
神経筋疾患の病理・病態の理解、基本的な脳卒中リハビリテーションの理論を座学で学び、体験やグループワークを通して脳卒中患者の状態を知り、そこに必要な評価・治療・補助・誘導を適切なリスク管理のもとに行えるように実技を通して学んでいきます。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
神経筋疾患 (主に脳卒中) の病理、病態を理解し、必要な評価の立案・実施、臨床推論をもとに基本的な理学療法プログラムを立案・実施することができること				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション リハビリテーションの基本姿勢	神経系のリハビリテーションの基本を再確認する		
2	運動学習理論	運動学習理論の理解とリハビリテーションの応用について		
3	大脳の構造と機能	大脳の構造と機能について (概論)		
4	大脳の構造と機能 (神経・血管)	大脳の構造と機能について (神経・血管)		
5	脳血管障害概論 (画像)	脳血管疾患の画像の見方について		
6	脳血管障害概論 (脳卒中理学療法の理論)	脳卒中運動麻痺回復・可塑性理論について		
7	脳血管障害概論 (脳卒中理学療法の理論)	ステージ理論に依拠したリハビリテーションについて		
8	脳卒中の病態、急性期治療、リスク管理	脳卒中の基本的病態の理解と急性期治療について リスク管理について		
9	脳卒中の病態、急性期治療、リスク管理	脳卒中の基本的病態の理解と急性期治療について リスク管理について		
10	脳血管障害の評価	JCS、BRS、SIAS、脳神経検査、協調性検査		
11	脳血管障害の評価	感覚障害、バランス、筋緊張、腱反射・病的反射		
12	脳血管障害の評価	高次脳機能障害の評価		
13	基本動作の補助・介助	寝返り動作、起き上がり動作の補助・介助について		
14	基本動作の補助・介助	寝返り動作、起き上がり動作の補助・介助について (実技)		
15	脳卒中診療ガイドライン	脳卒中診療ガイドライン2021の確認		

回	テーマ	内容
16	脳卒中患者の臨床像（背臥位）	背臥位の評価（実技）
17	急性期リハビリテーション	石黒幸治先生 急性期リハビリテーションについて
18	パーキンソン病の理学療法	石黒幸治先生 パーキンソン病の病態・評価・理学療法について
19	回復期リハビリテーション	津田浩史先生 回復期リハビリテーションについて
20	回復期リハビリテーション	津田浩史先生 歩行練習支援ロボットについて
21	背臥位から座位への誘導	背臥位から座位への姿勢変換時の誘導、リハビリテーションについて
22	座位から立位への誘導	座位から立位への視線返還時の誘導、リハビリテーションについて
23	脳卒中理学療法（回復期）	津田浩史先生 脳卒中リハビリテーション症例検討①
24	脳卒中理学療法（回復期）	津田浩史先生 脳卒中リハビリテーション症例検討②
25	脳卒中の装具療法	脳卒中の装具療法の基本について ロボティックスの紹介
26	脳卒中の装具療法	長下肢装具を用いたリハビリテーション
27	脳卒中の装具療法	短下肢装具を用いたリハビリテーション
28	立位の評価	脳卒中患者の立位の特徴について学ぶ
29	立位の評価	脳卒中患者の立位の特徴について（実技）
30	立位・歩行の補助・誘導	立位・歩行の補助・誘導、リハビリテーションについて
31	立位・歩行の補助・誘導	立位・歩行の補助・誘導、リハビリテーションについて （実技）
32	片麻痺患者にみられる合併症とその対策	
33	片麻痺患者にみられる合併症とその対策	
34	認知症	認知症概論、対応方法について
35	認知症	認知症の評価について（実技）

回	テーマ	内容		
36	高次脳機能障害に対する理学療法	高次脳機能障害のある患者への対応について①		
37	高次脳機能障害に対する理学療法	高次脳機能障害のある患者への対応について②		
38	脳卒中理学療法（生活期）	仲川仁先生 生活期リハビリテーションについて		
39	脳卒中理学療法（生活期）	仲川仁先生 ポバースコンセプトを含む様々なリハビリテーション		
40	筋萎縮性側索硬化症・多発性硬化症			
41	外傷性脳損傷（TBI）・脳腫瘍			
42	脳卒中理学療法（生活期）	仲川仁先生 ケーススタディ（脳卒中）		
43	脳卒中理学療法（生活期）	仲川仁先生 ケーススタディ（脳卒中）		
44	脊髄小脳変性症・その他			
45	まとめ	ICFでの病態整理、統合解釈		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
最新 法学	理学療法学講座 中枢神経系理学療法 医歯薬出版株式会社	課題・レポート 期末試験	40.0% 60.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学Ⅲ-1(小児)		理学療法科/3年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	杉本 和彦(実務経験有)
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・CP、筋ジス、二分脊椎、発達障害などの病態、症状</li> <li>・CP、筋ジス、二分脊椎、発達障害などの評価と理学療法</li> </ul> <b>【実務経験】病院勤務</b>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・CPの病態、臨床像を理解する。</li> <li>・CPに対する理学療法の概略を理解する。</li> <li>・筋ジス、二分脊椎、発達障害に関する臨床像と理学療法の概略を理解する。</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	脳性まひの評価概論	脳性ま痺の病態、臨床像について。GMFCS, GMFM, FEDI, FIMなどの評価指標について		
2	脳性麻痺に対する評価(ビデオ分析を通じて)1	両麻痺の姿勢、基本動作についてビデオ画像をもとに分析して整理する①		
3	脳性麻痺に対する評価(ビデオ分析を通じて)2	両麻痺の姿勢、基本動作についてビデオ画像をもとに分析して整理する②		
4	脳性麻痺に対する評価(ビデオ分析を通じて)3	姿勢・動作分析から機能障害の問題点との関連性を整理する。		
5	脳性麻痺に対する評価(ビデオ分析を通じて)4	ICFに基づき問題点を整理し、治療目標を立てる。		
6	脳性麻痺に対する治療(ビデオ分析を通じて)	両麻痺のCP児に対する治療場面を観察し、両麻痺に対する基本的治療の方法を理解する①		
7	脳性麻痺に対する治療(ビデオ分析を通じて)2	両麻痺のCP児に対する治療場面を観察し、両麻痺に対する基本的治療の方法を理解する②		
8	脳性麻痺に対する治療(ビデオ分析を通じて)3	両麻痺のCP児に対する治療場面を観察し、両麻痺に対する基本的治療の方法を理解する③		
9	脳性麻痺に対する治療(ビデオ分析を通じて)4	脳性麻痺のタイプ別の治療に対する考え方の整理する		
10	脳性麻痺に対する治療(ビデオ分析を通じて)5	脳性麻痺治療ガイドラインについて		
11	重症心身障害児・者に対する理学療法について1	重症心身障害児・者に対する理学療法の考え方について		
12	重症心身障害児・者に対する理学療法について2	重症心身障害児・者に対する姿勢ケアの考え方と実際		
13	二分脊椎の理学療法について	二分脊椎の病態、症状について 損傷レベルに応じた理学療法について		
14	小児の整形疾患について	小児の整形疾患の臨床像と理学療法について		
15	発達障害について	自閉症スペクトラム、ADHD、LDの臨床像と理学療法の役割について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
イラストで分かる小児理学療法 イラストで分かる人間発達学		期末試験 課題・レポート	60.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学Ⅳ-1 (内科)		理学療法科/3年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	1単位 (30時間)	必須	中島、山本、他 (実務経験有)
<p>内部障害の患者様を担当する上で必要となる最低限の国家試験レベルの基礎知識を学習する  また、臨床実習に必要とされる情報収集からカルテ記載までの一連の流れについて現場の理学療法士の方々から学ぶ  【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>態度：臨床実習に向けて自ら必要とする知識・技術を身につける為に、能動的に取り組むことができる  知識：内部障害に関して国家試験レベルの基礎知識を身につける  技能：呼吸、循環、代謝障害について</p>				
回	テーマ	内 容		
1	内部障害概論	内部障害の定義、疫学		
2	循環機能障害と理学療法 1	心臓リハビリテーションの概要		
3	循環機能障害と理学療法 2	虚血性心疾患、心不全の病態、症状、所見、理学療法		
4	循環機能障害と理学療法 3	大動脈疾患、末梢動脈疾患の病態、症状、所見、理学療法		
5	循環機能障害と理学療法 4	深部静脈血栓症の病態、症状、所見、理学療法		
6	不整脈と心電図 1	心電図波形の意味、心電図とは、刺激伝導系		
7	不整脈と心電図 2	心電図の基本形、電極の位置、電極の装着法		
8	不整脈と心電図 3	心電図を読むポイント、頻脈、徐脈、期外収縮、心房細動など		
9	不整脈と心電図 4	心電図を読むポイント、房室ブロック		
10	不整脈と心電図 5	心電図を読むポイント、虚血・梗塞		
11	不整脈と心電図 6	なぜ不整脈が問題になるのか		
12	気道内分泌物吸引法 1	感染対策、気管吸引を始める前に		
13	気道内分泌物吸引法 2	吸引操作の実際		
14	呼吸器系の構造と呼吸調節機能	呼吸器の構造、挿入循環、呼吸調節機能のメカニズム		
15	呼吸機能障害	気管支喘息、肺水腫、肺結核、外科手術後		
16	呼吸機能評価の意義と方法	スパイロメトリ、フローボリューム曲線、呼吸筋力、呼吸困難感、視診・触診・聴診・打診、6分間歩行試験等		
17	呼吸理学療法・運動療法	排痰法、胸郭可動域練習の実技		
18	慢性閉塞性肺疾患	COPDの病態、診断、治療、画像所見、理学療法について		

回	テーマ	内 容		
19	慢性閉塞性肺疾患	COPD症例のクリニカルリーズニング		
20	肺炎	肺炎・間質性肺炎の特徴、画像所見、理学療法について		
21	肺炎	肺炎・間質性肺炎症例のクリニカルリーズニング		
22	代謝障害について	代謝障害とは、肥満、肥満と高血圧の関係、肥満と脂質異常症の関係、メタボリックシンドロームについて		
23	エネルギー消費量・運動強度	エネルギー消費とは、METsとは、エネルギー消費量の計算法、身体活動量の目標		
24	代謝障害と運動プログラム	エネルギー供給の方法、有酸素運動と無酸素運動		
25	糖尿病	DMの病態、種類、症状、身体所見、指標、治療目標、治療、食事療法、運動療法、シックデイ、合併症等		
26	糖尿病	DM症例のクリニカルリーズニング		
27	慢性腎不全	腎臓の構造、機能、慢性腎臓病について		
28	慢性腎不全	慢性腎不全症例のクリニカルリーズニング		
29	がんのリハビリテーション	がんのリハビリテーションの基本概念、対象と障害の種類、アセスメント、理学療法		
30	内部障害と合併症・重症化リスク	内部障害と種々の合併症の関連について、内部障害と重症化のリスクについて		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新理学療法講座 内部障害理学療法学 第1版	小テスト		10.0%	
	課題・レポート		20.0%	
	期末試験		70.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学Ⅰ-Ⅱ(整形)		理学療法科/4年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	杉本和彦(実務経験有)
授業の概要				
本授業は、臨床実習で経験してきた整形疾患に対するケーススタディを通じて、病態、理学療法評価、治療についての基礎知識と実技を復習する 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
整形外科疾患を有する方への理学療法評価から治療までの一連の流れを理解する				
回	テーマ	内容		
1	骨折			
2	骨折			
3	骨折			
4	高齢者の骨折			
5	高齢者の骨折			
6	高齢者の骨折			
7	腰椎症・腰椎椎間板ヘルニア			
8	腰椎症・腰椎椎間板ヘルニア			
9	腰椎症・腰椎椎間板ヘルニア			
10	変形性股関節症(THA術後療法)			
11	変形性股関節症(THA術後療法)			
12	変形性股関節症(THA術後療法)			
13	変形性膝関節症(TKA術後療法)			
14	変形性膝関節症(TKA術後療法)			
15	変形性膝関節症(TKA術後療法)			

回	テ ー マ	内 容
16	末梢神経損傷（顔面神経麻痺）	
17	末梢神経損傷（顔面神経麻痺）	
18	末梢神経損傷（顔面神経麻痺）	
19	末梢循環障害	
20	末梢循環障害	
21	末梢循環障害	
22	頸肩腕症候群（肩関節周囲炎含む）	
23	頸肩腕症候群（肩関節周囲炎含む）	
24	頸肩腕症候群（肩関節周囲炎含む）	
25	脊髄損傷	
26	脊髄損傷	
27	脊髄損傷	
28	関節リウマチ	
29	関節リウマチ	
30	関節リウマチ	
31	胸郭出口症候群・乳がん（手術後）	
32	胸郭出口症候群・乳がん（手術後）	
33	胸郭出口症候群・乳がん（手術後）	
34	頸椎・腰椎術後療法	
35	頸椎・腰椎術後療法	

回	テ ー マ	内 容		
36	頸椎・腰椎術後療法			
37	スポーツ外傷 ACL・半月板損傷			
38	スポーツ外傷 ACL・半月板損傷			
39	スポーツ外傷 ACL・半月板損傷			
40	熱傷・切断と義肢			
41	熱傷・切断と義肢			
42	熱傷・切断と義肢			
43	まとめ			
44	まとめ			
45	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜、配布		課題	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学Ⅱ-2 (神経)		理学療法科/4年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位 (60時間)	必須	杉本和彦 (実務経験有)
授業の概要				
本授業では、臨床実習で経験した症例を元にケーススタディを中心に脳血管障害、脊髄損傷を中心とした中枢神経疾患と難病の理学療法について、病態、理学療法評価、治療に関する実際と基礎的知識を復習する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
神経疾患の理学療法の評価から治療の流れを理解できる				
回	テーマ	内容		
1	脳血管障害	片麻痺の理学療法 (基本概念)		
2	脳血管障害	片麻痺の理学療法 (基本概念)		
3	脳血管障害	片麻痺の理学療法 (基本概念)		
4	脳血管障害	理学療法評価		
5	脳血管障害	理学療法評価		
6	脳血管障害	理学療法評価		
7	脳血管障害	急性期の理学療法		
8	脳血管障害	急性期の理学療法		
9	脳血管障害	急性期の理学療法		
10	脳血管障害	回復期の理学療法		
11	脳血管障害	回復期の理学療法		
12	脳血管障害	回復期の理学療法		
13	脳血管障害	維持期の理学療法		
14	脳血管障害	維持期の理学療法		
15	脳血管障害	維持期の理学療法		

回	テ ー マ	内 容
16	脊髄損傷の理学療法 1	
17	脊髄損傷の理学療法 1	
18	脊髄損傷の理学療法 1	
19	脊髄損傷の理学療法 2	
20	脊髄損傷の理学療法 2	
21	脊髄損傷の理学療法 2	
22	脊髄損傷の理学療法 3	
23	脊髄損傷の理学療法 3	
24	脊髄損傷の理学療法 3	
25	Parkinson病の理学療法	
26	Parkinson病の理学療法	
27	Parkinson病の理学療法	
28	運動失調症の理学療法	
29	運動失調症の理学療法	
30	運動失調症の理学療法	
31	難病の理学療法	脊髄小脳変性症
32	難病の理学療法	脊髄小脳変性症
33	難病の理学療法	脊髄小脳変性症
34	難病の理学療法	多発性硬化症
35	難病の理学療法	多発性硬化症

回	テ ー マ	内 容		
36	難病の理学療法	多発性硬化症		
37	難病の理学療法	筋萎縮性側索硬化症		
38	難病の理学療法	筋萎縮性側索硬化症		
39	難病の理学療法	筋萎縮性側索硬化症		
40	頭部外傷			
41	頭部外傷			
42	頭部外傷			
43	まとめ			
44	まとめ			
45	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜、配布		課題	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学Ⅲ-2 (小児)		理学療法科/4年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	1単位(30時間)	必須	杉本和彦(実務経験有)
授業の概要				
本授業では、脳性麻痺児を中心に、発達障害に対する病態、評価、治療についての基本的知識を復習する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
小児疾患に対する理学療法評価から治療の流れを理解できる				
回	テーマ	内容		
1	脳性麻痺児に対する評価・治療			
2	脳性麻痺児に対する評価・治療			
3	脳性麻痺児に対する評価・治療			
4	脳性麻痺児に対する評価・治療			
5	脳性麻痺児に対する評価・治療			
6	脳性麻痺児に対する評価・治療			
7	脳性麻痺児に対する評価・治療			
8	脳性麻痺児に対する評価・治療			
9	脳性麻痺児に対する評価・治療			
10	脳性麻痺児に対する評価・治療			
11	筋ジストロフィーに対する理学療法			
12	筋ジストロフィーに対する理学療法			
13	筋ジストロフィーに対する理学療法			
14	筋ジストロフィーに対する理学療法			
15	筋ジストロフィーに対する理学療法			

回	テ ー マ	内 容		
16	筋ジストロフィーに対する理学療法			
17	二分脊椎に対する理学療法			
18	二分脊椎に対する理学療法			
19	二分脊椎に対する理学療法			
20	二分脊椎に対する理学療法			
21	重症心身障害児に対する理学療法			
22	重症心身障害児に対する理学療法			
23	重症心身障害児に対する理学療法			
24	重症心身障害児に対する理学療法			
25	発達障害に関する理学療法			
26	発達障害に関する理学療法			
27	発達障害に関する理学療法			
28	発達障害に関する理学療法			
29	まとめ			
30	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜、資料配布		課題	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学Ⅳ-2 (内科)		理学療法科/4年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	1単位(30時間)	必須	杉本和彦(実務経験有)
授業の概要				
本授業では、呼吸・循環・代謝系の理学療法を実施するうえで、各疾患における病態、評価、理学療法、リスク管理について復習し、ケーススタディを通じて学習内容の理解を深めることを目的とする【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
内科疾患の理学療法の評価から治療の流れを理解できる				
回	テーマ	内 容		
1	呼吸器疾患に対する理学療法			
2	呼吸器疾患に対する理学療法			
3	呼吸器疾患に対する理学療法			
4	呼吸器疾患に対する理学療法			
5	呼吸器疾患に対する理学療法			
6	呼吸器疾患に対する理学療法			
7	呼吸器疾患に対する理学療法			
8	呼吸器疾患に対する理学療法			
9	呼吸器疾患に対する理学療法			
10	呼吸器疾患に対する理学療法			
11	循環器疾患に対する理学療法			
12	循環器疾患に対する理学療法			
13	循環器疾患に対する理学療法			
14	循環器疾患に対する理学療法			
15	循環器疾患に対する理学療法			

回	テーマ	内 容		
16	循環器疾患に対する理学療法			
17	循環器疾患に対する理学療法			
18	循環器疾患に対する理学療法			
19	循環器疾患に対する理学療法			
20	循環器疾患に対する理学療法			
21	代謝疾患に対する理学療法			
22	代謝疾患に対する理学療法			
23	代謝疾患に対する理学療法			
24	代謝疾患に対する理学療法			
25	代謝疾患に対する理学療法			
26	代謝疾患に対する理学療法			
27	代謝疾患に対する理学療法			
28	代謝疾患に対する理学療法			
29	まとめ			
30	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜、資料配布		課題	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
超音波エコーと精密触診		理学療法科/2年	2023/後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	選択	高原・山本(実務経験者)
授業の概要				
全身の運動器の構造物である筋、腱、神経、血管などを超音波エコーで描出する方法と精密に触診する方法を学習する。				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
全身の運動器の構造物である筋、腱、神経、血管などを超音波エコーで描出しつつ、精密触診によって状態を把握することができる。				
回	テーマ	内容		
1	超音波エコーの基礎技術	超音波エコーの基礎技術を学習する。		
2	精密触診の基礎技術	精密触診の基礎技術を学習する。		
3	脊椎	脊椎の精密触診の技術を学習する。		
4	頸椎	頸椎の精密触診の技術を学習する。		
5	胸椎・胸郭	胸椎・胸郭の精密触診の技術を学習する。		
6	腰椎	腰椎の精密触診の技術を学習する。		
7	骨盤	骨盤の精密触診の技術を学習する。		
8	股関節	股関節の精密触診の技術を学習する。		
9	膝関節	膝関節の精密触診の技術を学習する。		
10	足関節	足関節の精密触診の技術を学習する。		
11	足部	足部の精密触診の技術を学習する。		
12	肩関節	肩関節の精密触診の技術を学習する。		
13	肘関節	肘関節の精密触診の技術を学習する。		
14	前腕	前腕の精密触診の技術を学習する。		
15	手関節	手関節の精密触診の技術を学習する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論 運動療法その前に! 運動器の臨床解剖アトラス		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
スポーツ救急法		理学療法科/2年	2023/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	選択	高原、西潟(実務経験者)
授業の概要				
スポーツ現場で遭遇する可能性のある外傷や病気に対する救急法を学習する。				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
スポーツ現場で遭遇する可能性のある外傷や病気に遭遇した際の基本的な対処法を実施できる。				
回	テーマ	内容		
1	スポーツ現場でのファーストエイド	スポーツ現場でのファーストエイドの手順と注意点を学習する。		
2	AEDと心臓マッサージ	AEDと心臓マッサージの基本的な方法を学習する。		
3	脳震盪・頸部外傷・熱中症	脳震盪・頸部外傷・熱中症への対応を学習する。		
4	脳震盪からの復帰	脳震盪後のスポーツ復帰の基本的な手順を学習する。		
5	RICE理論	RICE処置の理論と適用方法について学習する。		
6	アイシング	アイシングの理論と適用方法について学習する。		
7	弾性包帯	弾性包帯の取り扱いと適用方法について学習する。		
8	テーピング	救急処置で用いるテーピングの理論と適用方法について学習する。		
9	足関節捻挫	足関節捻挫に対する救急処置の方法を学習する。		
10	膝靭帯損傷	膝靭帯損傷に対する救急処置の方法を学習する。		
11	打撲・肉ばなれ	打撲・肉ばなれに対する救急処置の方法を学習する。		
12	肩関節脱臼	肩関節脱臼に対する救急処置の方法を学習する。		
13	肘関節脱臼	肘関節脱臼に対する救急処置の方法を学習する。		
14	手関節・手指	手関節・手指の外傷に対する救急処置の方法を学習する。		
15	創傷	創傷に対する救急処置の方法を学習する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布		レポート課題	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
スポーツ外傷学概論		理学療法科/2年	2023/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	選択	高原・山本・他(実務経験者)
授業の概要				
全身のスポーツ外傷の病因、疫学、診断、症状、治療法、リハビリテーションについて概説する。 超音波エコーの活用法を説明する				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
全身のスポーツ外傷の病因、疫学、診断、症状、治療法、リハビリテーションの概要を理解し、評価や治療法の学習を開始できる。 評価項目に超音波エコーの活用ができること				
回	テーマ	内容		
1	スポーツ外傷学総論	スポーツ外傷学の目的、範囲、内容について学習する。		
2	診断学総論	診断学の基礎的な手順と考え方、診断基準について学習する。超音波エコーも活用する。		
3	脊椎	脊椎のスポーツ外傷の病態・受傷メカニズム・診断法を学習する。		
4	頸椎	頸椎のスポーツ外傷の病態・受傷メカニズム・診断法を学習する。		
5	胸椎・胸郭	胸椎・胸郭のスポーツ外傷の病態・受傷メカニズム・診断法を学習する。		
6	腰椎	腰椎のスポーツ外傷の病態・受傷メカニズム・診断法を学習する。		
7	骨盤	骨盤のスポーツ外傷の病態・受傷メカニズム・診断法を学習する。		
8	股関節	股関節のスポーツ外傷の病態・受傷メカニズム・診断法を学習する。		
9	膝関節	膝関節のスポーツ外傷の病態・受傷メカニズム・診断法を学習する。		
10	足関節	足関節のスポーツ外傷の病態・受傷メカニズム・診断法を学習する。		
11	足部	足部のスポーツ外傷の病態・受傷メカニズム・診断法を学習する。		
12	肩関節	肩関節のスポーツ外傷の病態・受傷メカニズム・診断法を学習する。		
13	肘関節	肘関節のスポーツ外傷の病態・受傷メカニズム・診断法を学習する。		
14	前腕	前腕のスポーツ外傷の病態・受傷メカニズム・診断法を学習する。		
15	手関節	手関節のスポーツ外傷の病態・受傷メカニズム・診断法を学習する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布		レポート課題	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
スポーツ外傷治療学		理学療法科/3年	2024/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	選択	西潟、高原、他(実務経験者)
授業の概要				
全身のスポーツ外傷の治療法について概説する。				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
全身のスポーツ外傷の治療法について理解し、治療法実技の学習を開始できる。				
回	テーマ	内容		
1	スポーツ外傷学評価学総論	スポーツ外傷治療学の目的、範囲、内容について学習する。		
2	治療の設計図の基礎	スポーツ外傷の治療の設計図の理論と運用法について学習する。		
3	脊椎	脊椎のスポーツ外傷の治療法を学習する。		
4	頸椎	頸椎のスポーツ外傷の治療法を学習する。		
5	胸椎・胸郭	胸椎・胸郭のスポーツ外傷の治療法を学習する。		
6	腰椎	腰椎のスポーツ外傷の治療法を学習する。		
7	骨盤	骨盤のスポーツ外傷の治療法を学習する。		
8	股関節	股関節のスポーツ外傷の治療法を学習する。		
9	膝関節	膝関節のスポーツ外傷の治療法を学習する。		
10	足関節	足関節のスポーツ外傷の治療法を学習する。		
11	足部	足部のスポーツ外傷の治療法を学習する。		
12	肩関節	肩関節のスポーツ外傷の治療法を学習する。		
13	肘関節	肘関節のスポーツ外傷の治療法を学習する。		
14	前腕	前腕のスポーツ外傷の治療法を学習する。		
15	手関節	手関節のスポーツ外傷の治療法を学習する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
テーピング・補装具実技		理学療法科/3年	2024/前期	実技
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	選択	高原、西潟、他(実務経験者)
授業の概要				
全身のスポーツ外傷に対するテーピング・補装具の適用法を学習する。				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
全身のスポーツ外傷に対するテーピング・補装具をアスリートに適用できるようになる。				
回	テーマ	内容		
1	テーピング・補装具総論	テーピング・補装具の目的、適応、リスク、禁忌、実施方法を学習する。		
2	テーピングの基本	テーピングの基本技術を習得する。		
3	脊椎	脊椎のスポーツ外傷に対するテーピング・補装具の実技を学習する。		
4	頸椎	頸椎のスポーツ外傷に対するテーピング・補装具の実技を学習する。		
5	胸椎・胸郭	胸椎・胸郭のスポーツ外傷に対するテーピング・補装具の実技を学習する。		
6	腰椎	腰椎のスポーツ外傷に対するテーピング・補装具の実技を学習する。		
7	骨盤	骨盤のスポーツ外傷に対するテーピング・補装具の実技を学習する。		
8	股関節	股関節のスポーツ外傷に対するテーピング・補装具の実技を学習する。		
9	膝関節	膝関節のスポーツ外傷に対するテーピング・補装具の実技を学習する。		
10	足関節	足関節のスポーツ外傷に対するテーピング・補装具の実技を学習する。		
11	足部	足部のスポーツ外傷に対するテーピング・補装具の実技を学習する。		
12	肩関節	肩関節のスポーツ外傷に対するテーピング・補装具の実技を学習する。		
13	肘関節	肘関節のスポーツ外傷に対するテーピング・補装具の実技を学習する。		
14	前腕	前腕のスポーツ外傷に対するテーピング・補装具の実技を学習する。		
15	手関節	手関節のスポーツ外傷に対するテーピング・補装具の実技を学習する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
アスレティック トレーニング座学		理学療法科/3年	2024/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	選択	高原、西潟、他(実務経験者)
授業の概要				
全身のスポーツ外傷に対するテーピング・補装具の適用法を学習する。				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
全身のスポーツ外傷に対するテーピング・補装具をアスリートに適用できるようになる。				
回	テーマ	内容		
1	総論	アスレティックトレーニングで用いる運動療法・トレーニング法の考え方を学習する。		
2	リアライン・トレーニング(体幹)	体幹のリアライン・トレーニングを学習する。		
3	リアライン・トレーニング(股関節)	股関節のリアライン・トレーニングを学習する。		
4	リアライン・トレーニング(膝関節)	膝関節のリアライン・トレーニングを学習する。		
5	リアライン・トレーニング(足関節)	足関節のリアライン・トレーニングを学習する。		
6	可動域と柔軟性(脊椎)	脊椎の可動域拡大のための運動療法を学習する。		
7	可動域と柔軟性(上肢)	上肢関節の可動域拡大のための運動療法を学習する。		
8	可動域と柔軟性(下肢)	下肢関節の可動域拡大のための運動療法を学習する。		
9	スタビライズトレーニング(脊椎・体幹)	体幹の筋機能改善、筋力増強のための運動療法を学習する。		
10	スタビライズトレーニング(上肢)	上肢の筋機能改善、筋力増強のための運動療法を学習する。		
11	スタビライズトレーニング(下肢)	下肢の筋機能改善、筋力増強のための運動療法を学習する。		
12	コーディネートトレーニング1	動作修正のためのコーディネート・トレーニングを学習する。		
13	コーディネートトレーニング2	動作修正のためのコーディネート・トレーニングを学習する。		
14	ピラティス	ピラティスの基礎的な理論とエクササイズを学習する。		
15	ヨガ	ヨガの基礎的な理論とエクササイズを学習する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
リアライン・トレーニング体幹・股関節編 リアライン・トレーニング下肢編		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
アスレティック リハビリテーション実技		理学療法科/4年	2025/後期	実技
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	選択	西潟、高原、他(実務経験者)
授業の概要				
全身のスポーツ外傷のアスレティックリハビリテーションの実技を学習する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
全身のスポーツ外傷のアスレティックリハビリテーションの実技を修得し、アスリートに対して実施できる。				
回	テーマ	内容		
1	アスレティックリハビリテーション総論	アスレティックリハビリテーションの目的、範囲、内容について学習する。		
2	アスレティックリハビリテーションの具体例	ACL損傷、肩関節脱臼を例に、アスレティックリハビリテーションの進行に必要な技術を学習する。		
3	脊椎	脊椎のスポーツ外傷のアスレティックリハビリテーションの実技を学習する。		
4	頸椎	頸椎のスポーツ外傷のアスレティックリハビリテーションの実技を学習する。		
5	胸椎・胸郭	胸椎・胸郭のスポーツ外傷のアスレティックリハビリテーションの実技を学習する。		
6	腰椎	腰椎のスポーツ外傷のアスレティックリハビリテーションの実技を学習する。		
7	骨盤	骨盤のスポーツ外傷のアスレティックリハビリテーションの実技を学習する。		
8	股関節	股関節のスポーツ外傷のアスレティックリハビリテーションの実技を学習する。		
9	膝関節	膝関節のスポーツ外傷のアスレティックリハビリテーションの実技を学習する。		
10	足関節	足関節のスポーツ外傷のアスレティックリハビリテーションの実技を学習する。		
11	足部	足部のスポーツ外傷のアスレティックリハビリテーションの実技を学習する。		
12	肩関節	肩関節のスポーツ外傷のアスレティックリハビリテーションの実技を学習する。		
13	肘関節	肘関節のスポーツ外傷のアスレティックリハビリテーションの実技を学習する。		
14	前腕	前腕のスポーツ外傷のアスレティックリハビリテーションの実技を学習する。		
15	手関節	手関節のスポーツ外傷のアスレティックリハビリテーションの実技を学習する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布		課題レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
スポーツ理学療法学		理学療法科/2年	2023/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	高原 美恵(実務経験有)
授業の概要				
スポーツ障害に対する評価、治療アプローチ方法を学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
スポーツ障害に対する評価、治療方法を理解する				
回	テーマ	内容		
1	ハムストリングス肉離れ、腸脛靭帯炎	ハムストリングス肉離れ、腸脛靭帯炎の受傷機転、疾患、評価、治療		
2	下腿三頭筋肉離れ、アキレス腱炎	下腿三頭筋肉離れ、アキレス腱炎の受傷機転、疾患、評価、治療		
3	足関節捻挫、有痛性外脛骨、Jones骨折	足関節捻挫、有痛性外脛骨、Jones骨折の受傷機転、疾患、評価、治療		
4	ジャンパー膝	ジャンパー膝の受傷機転、疾患、評価、治療		
5	半月板損傷	半月板損傷の受傷機転、疾患、評価、治療		
6	前十字靭帯損傷	前十字靭帯損傷の受傷機転、疾患、評価、治療		
7	股関節唇損傷	股関節唇損傷の受傷機転、疾患、評価、治療		
8	臼蓋形成不全	臼蓋形成不全の受傷機転、疾患、評価、治療		
9	腰椎分離症、腰椎ヘルニア	腰椎分離症、腰椎ヘルニアの受傷機転、疾患、評価、治療		
10	肩峰下インピンジメント症候群 投球障害肩	肩峰下インピンジメント症候群、投球障害肩の受傷機転、疾患、評価、治療		
11	肩関節脱臼、反復性肩関節脱臼	肩関節脱臼、反復性肩関節脱臼の受傷機転、疾患、評価、治療		
12	腱板損傷、腱板断裂	腱板損傷、腱板断裂の受傷機転、疾患、評価、治療		
13	手関節障害	手関節障害の受傷機転、疾患、評価、治療		
14	テニス肘(上腕骨外側上顆)	テニス肘(上腕骨外側上顆)の受傷機転、疾患、評価、治療		
15	野球肘、 上腕骨小頭障害	野球肘、上腕骨小頭障害の受傷機転、疾患、評価、治療		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
スポーツ理学療法学		実習・実技評価 確認テスト 期末試験	30.0% 20.0% 50.0%	実技評価ができない場合はレポートで30%評価とする。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療計画法		理学療法科/2年	2023/後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	山本政孝(実務経験有り)
授業の概要				
3年次の評価実習を念頭に置いて、評価⇒統合と解釈のプロセスを症例を通して理解していく。特に統合と解釈に必要な臨床的思考(クリニカルリーズニング)をグループワークで議論していく				
授業終了時の到達目標				
評価から統合・解釈のプロセスを理解できること 臨床的思考を理解できること				
回	テーマ	内容		
1	症例レポート	レポートの流れと書き方		
2		レポート作成①		
3		レポート作成②		
4	統合と解釈について	統合と解釈について レポート内容の見直し、分析		
5	臨床的思考(ワーク)	ケース別 理学療法臨床的思考 ～ ケース例題 ～		
6		ケース別 理学療法臨床的思考 ～ ケース① ～ グループワークを交えて		
7		グループごとに発表、解説		
8		ケース別 理学療法臨床的思考 ～ ケース② ～ グループワークを交えて		
9		グループごとに発表、解説		
10		ケース別 理学療法臨床的思考 ～ ケース③ ～ グループワークを交えて		
11		グループごとに発表、解説		
12		ケース別 理学療法臨床的思考 ～ ケース④ ～ グループワークを交えて		
13		グループごとに発表、解説		
14		ケース別 理学療法臨床的思考 ～ ケース⑤ ～ グループワークを交えて		
15		グループごとに発表、解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題・レポート 期末試験	40.0% 60.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法演習Ⅰ		理学療法科/3年	2023/前期	授業・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60)	必須	杉本和彦(実務経験有)
授業の概要				
理学療法の一連の流れとは情報収集から始まり、治療の再考までに至る 理学療法手技論では1人1人の症例について、理学療法の一連の流れを確認し、その中でも特に必要とされた理学療法手技について 重点をおいて学習を進める 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法の一連の流れを知る</li> <li>・理学療法の一連の流れの中で必要とされる知識・技術を知る</li> <li>・理学療法の一連の流れの中で必要とされる知識・技術の基礎を習得できる</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	総論	理学療法の一連の流れ		
2	症例検討	股関節唇損傷 股関節痛の評価、梨状筋検査・治療		
3	症例検討	大腿骨転子部骨折(PNFA) 荷重量の評価、荷重痛、中殿筋の評価		
4	症例検討	大腿骨転子部骨折(髓内釘) 股・膝関節可動域評価・治療		
5	症例検討	変形性股関節症(THA) 脱臼予防動作		
6	症例検討	右膝化膿性関節炎、慢性腎不全 筋力低下と筋力トレーニング		
7	症例検討	変形性膝関節症(TKA) 筋力低下と筋力トレーニング		
8	症例検討	膝蓋骨横骨折 膝関節可動域評価・治療		
9	症例検討	左放線冠梗塞 長下肢装具での歩行練習		
10	症例検討	視床出血 歩行評価・治療		
11	症例検討	アテローム血栓性脳梗塞 片麻痺の回復過程におけるリスク管理		
12	症例検討	頸椎症性脊髄症 筋協調性の評価・治療		
13	症例検討	肩関節周囲炎 肩関節可動域評価・治療		
14	症例検討	脊髄小脳変性症 小脳失調の評価・治療		
15	症例検討	第2腰椎圧迫骨折 体幹機能の評価・治療		

回	テ ー マ	内 容		
16	症例検討	第12胸椎圧迫骨折 日常生活動作指導		
17	症例検討	亜急性連合性脊髄変性症 起居動作評価・治療		
18	症例検討	大腿骨頸部骨折（人工骨頭置換術） 脱臼予防指導		
19	症例検討	変形性膝関節症（高位脛骨骨切り術HTO） 膝関節可動域評価・治療		
20	症例検討	変形性膝関節症（TKA） 歩行評価・治療		
21	症例検討	膝内側半月板損傷		
22	症例検討	脛骨天蓋骨折 免荷歩行		
23	症例検討	オスグッド 大腿四頭筋機能評価・治療		
24	症例検討	脛骨後果骨折		
25	症例検討	腰椎分離症 体幹機能評価・治療、腸腰筋機能評価・治療		
26	症例検討	ラクナ梗塞 歩行評価・治療		
27	症例検討	心原性脳塞栓症 基本的動作評価・治療		
28	症例検討	視床出血 歩行評価・治療		
29	症例検討	肩腱板断裂 肩関節可動域評価・治療		
30	症例検討	腰痛症 腰部痛評価・治療		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜資料を配布		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法演習Ⅱ		理学療法科/3年	2023/後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60)	必須	竹中、高原、西潟、他(実務経験有)
授業の概要				
<p>実習に必要な基本的知識や技術、疾患別理学療法の方、リスク管理、感染管理について、復習も兼ねて講義と実技演習、グループワークなどを行う。 【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・トランスファー知識と技術を習得できる</li> <li>・疾患別理学療法の方、考え方が習得できる</li> <li>・面談技法、SOAP、記録の書き方を習得できる</li> <li>・病態のリスク管理、感染管理の知識を習得できる</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	総論 1	臨床実習における姿勢、考え方、注意事項		
2	総論 2	臨床実習における姿勢、考え方、注意事項		
3	グループワーク 1	総論で学んだことをグループでディスカッションする		
4	グループワーク 2	総論で学んだことをグループでディスカッションする		
5	リスク管理 1	リスクをどのように考えるか		
6	リスク管理 2	急変時対応 急性期		
7	リスク管理 3	急変時対応 回復期		
8	リスク管理 4	急変時対応 外来・通所		
9	リスク管理 5	急変時対応 在宅		
10	基礎的知識 1	問診と傾聴		
11	基礎的知識 2	SOAPと記録の書き方		
12	基礎的知識 3	評価の正確性とスピード		
13	基礎的知識 4	クリニカルリーズニング		
14	基礎的知識 5	主訴から考えるチャート作成		
15	整形外科疾患の考え方 1	総論		

回	テーマ	内 容		
16	整形外科疾患の考え方 2	各論1 事例検討とリスク管理		
17	整形外科疾患の考え方 3	各論2 事例検討とリスク管理		
18	整形外科疾患の考え方 4	各論3 事例検討とリスク管理		
19	整形外科疾患の考え方 5	各論4 事例検討とリスク管理		
20	整形外科疾患の考え方 6	各論5 事例検討とリスク管理 動作分析		
21	整形外科疾患の考え方 7	まとめ 統合と解釈 確認テスト		
22	脳血管障害の考え方 1	事例検討とリスク管理 1		
23	脳血管障害の考え方 2	事例検討とリスク管理 2		
24	脳血管障害の考え方 3	事例検討とリスク管理 3		
25	脳血管障害の考え方 4	事例検討とリスク管理 4		
26	脳血管障害の考え方 5	事例検討とリスク管理 5 歩行分析、転倒予防		
27	脳血管障害の考え方 6	まとめ 統合と解釈 確認テスト		
28	感染管理 1	感染症の考え方 スタンダードプリコーション		
29	感染管理 2	新型コロナウイルス感染症への対応		
30	感染管理 3	手洗い、手指消毒、清掃方法 確認テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布		課題・レポート 確認テスト	50.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
地域理学療法論Ⅰ		理学療法科/1年	2023/後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	小島 利彦(実務経験有)
授業の概要				
リハビリテーションの理念を基に、地域リハビリテーションサービスについての理解を深め、理学療法士の役割や考え方、方法を学ぶ。地域におけるサービス(通所、訪問、健康教室など)についても学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1. 地域リハビリテーションの概念、理学療法士と他職種との連携の重要性を理解する。 2. 地域リハビリテーション、在宅・訪問・通所など、病院以外での理学療法士の関わりについて理解する。 3. 臨床実習を経験した学年からの経験談や経験値を聞いて理解を深める。				
回	テーマ	内容		
1	地域包括ケアシステムとは?	4年生と合同でのグループワーク・発表		
2	介護保険制度とは?	4年生と合同でのグループワーク・発表		
3	地域理学療法とは?	4年生と合同でのグループワーク・発表		
4	地域リハビリテーションの概念	地域リハビリテーションの定義、活動指針		
5	介護保険制度とケアマネジメント	要介護・要支援とサービス		
6	地域リハビリテーションをめぐる諸制度	地域リハビリテーションをめぐる諸制度		
7	医療・保健・福祉の連携の意義と方法	医療・保健・福祉の連携の意義と方法		
8	地域包括支援センターの役割	地域包括ケアシステムと包括支援センター		
9	施設、通所リハビリテーションの意義と方法	施設、通所リハビリテーションの意義と方法		
10	訪問リハビリテーションの意義と方法	訪問リハビリテーションの意義と方法		
11	精神・発達障害領域における地域リハビリテーションサービス	精神・発達障害領域における地域リハビリテーションサービス		
12	障がい者の就労支援と理学療法	障がい者の就労支援と理学療法		
13	介護予防における理学療法士の役割	介護予防における理学療法士の役割		
14	地域理学療法の目的、評価、目標、計画	地域理学療法の目的、評価、目標、計画		
15	地域理学療法における指導の考え方	地域理学療法における指導の考え方 国際保健とCBR、地域における社会資源		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
■標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学(第4版) 医学書院		期末試験 課題	80.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
地域理学療法論Ⅱ		理学療法科/2年	2023/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位(60時間)	必須	小島利彦(実務経験有)
授業の概要				
<p>地域理学療法論Ⅰで学習した内容を基に、地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割や考え方、介入方法について、グループワークやロールプレイング、症例検討などを通して理解を深める。 【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域における他職種や理学療法士の役割、制度、サービス等について理解し、考察した内容について、口述発表やレポート作成において説明することができる。</li> <li>地域リハビリテーションに関連するテーマについて、これまで学習した知識や考え方を基に自身の考えを説明することができる。</li> </ul>				
回	テーマ	内容		
1	地域包括ケアシステム演習①	シラバス・ワーク概要説明・グループと役割決め・準備・計画・捕捉講義		
2	地域包括ケアシステム演習②	グループワーク(地域の特徴・地域ニーズのあぶりだし)		
3	地域包括ケアシステム演習③	発表資料作成		
4	地域包括ケアシステム演習④	発表会		
5	地域包括ケアシステム演習⑤	発表会		
6	地域ケア会議(講義)			
7	地域ケア会議(演習)①	グループワーク、情報収集、文献抄読		
8	地域ケア会議(演習)②	グループワーク、情報収集、文献抄読		
9	地域ケア会議(演習)③	ロールプレイング		
10	在宅医療への理学療法(講義)			
11	在宅医療への理学療法(演習)②			
12	在宅医療への理学療法(演習)③			
13	在宅医療への理学療法(演習)④			
14	介護予防(講義)	フレイル・ロコモティブシンドローム・フレイルの予防方法		
15	介護予防(演習)①	集団体操作成のグループワーク、情報収集、文献抄読		
16	介護予防(演習)②	集団体操作成のグループワーク、情報収集、文献抄読		
17	介護予防(演習)③	集団体操のグループワーク課題の発表		
18	住環境評価・介入(講義)			
19	住環境評価・介入(演習)①	グループワーク(住環境の課題抽出・改善案の検討)		
20	住環境評価・介入(演習)②	家屋調査報告書・改善案の作成		
21	住環境評価・介入(演習)③	発表会		
22	退院支援(講義)			
23	退院支援(演習)①	グループワーク、情報収集、文献抄読		
24	退院支援(演習)②	グループワーク、情報収集、文献抄読		
25	退院支援(演習)③	ロールプレイング		
26	症例検討①			
27	症例検討②			
28	症例検討③	発表会		
29	症例検討④	発表会		
30	国家試験問題			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学 地域理学療法第5版 医学書院		演習課題 レポート課題 テスト	30.0% 50.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床見学実習Ⅰ		理学療法科/1年	2023/後期	実習(一部学内実習)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	
		1単位(40時間)	必須	竹中・高原・山本・他(実務経験有)
授業の概要				
<p>病院にて、見学実習を3日間行い、その前後に学校で2日分の課題を行う。  見学を通して以下のことを学習同期を確認する。②これまで学習したことの意義を理解し、今後の学習意欲の向上を行う。③社会人、医療従事者としての責任的行動の遂行を心掛ける。④病院における理学療法部門の位置づけを理解する。⑤理学療法士の業務の内容を把握する。⑥患者や利用者とのとの関わり方についてイメージを持つ。【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>①病院のスケジュールに従って行動することができる。学生は施設の規則を遵守し、職員・患者に対する礼儀をわきまえ、見学担当者の指示に従うことができる。②職員・患者に対して社会人として相応しいコミュニケーション(適切な挨拶・言葉遣い等)がとれる。③学生間や患者との不用意な会話は慎むことができる。また、患者について知り得た情報の守秘義務を守ることができる。</p>				
回	テーマ	内 容		
1				
2				
3		令和6年3月頃から1週間(40時間)の予定		
4		新型コロナウイルス感染症にて実習中止などの場合、期間変更もしくは学内実習とする場合がある。		
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題レポート、デイリーノートの提出、出欠、実習態度、等により評定。	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床見学実習Ⅱ		理学療法科/2年	2023/前期	実習(一部学内実習)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
		1単位(40時間)	必須	竹中・高原・山本・他(実務経験有)
授業の概要				
<p>病院にて、見学実習を3日間行い、その前後に学校で2日分の課題を行う。見学を通して以下のことを学習同期を確認する。②これまで学習したことの意義を理解し、今後の学習意欲の向上を行う。③社会人、医療従事者としての責任的行動の遂行を心掛ける。④病院における理学療法部門の位置づけを理解する。⑤理学療法士の業務の内容を把握する。⑥患者や利用者とのとの関わり方についてイメージを持つ。【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>①病院のスケジュールに従って行動することができる。学生は施設の規則を遵守し、職員・患者に対する礼儀をわきまえ、見学担当者の指示に従うことができる。②職員・患者に対して社会人として相応しいコミュニケーション(適切な挨拶・言葉遣い等)がとれる。③学生間や患者との不用意な会話は慎むことができる。また、患者について知り得た情報の守秘義務を守ることができる。</p>				
回	テーマ	内容		
		新型コロナウイルス感染症にて実習中止などの場合、期間変更もしくは学内実習とする場合がある。		
		令和5年8月頃から、1週間(40時間)の予定。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題レポート、デイリーノートの提出、出欠、実習態度、等により評定。	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
地域理学療法実習		理学療法科/4年	2023/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
		1単位(40時間)	必須	小島、竹中、西潟、他(実務経験有)
授業の概要				
<p>実習の成果を踏まえ、地域理学療法法の体験をすることで、理学療法士の役割に対して理解を深めることを目的とする。</p> <p>【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>①通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション利用者に対する理学療法を見学することができる。②通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション利用者に対する理学療法を一部経験することができる。③ケアプランの立案過程を見学することができる。</p>				
回	テーマ	内容		
1	令和5年4月17日～4月28日のうち40時間	前半・後半の2クールに分散して実習を行う		
2		新型コロナウイルス感染症にて実習中止などの場合、期間変更とする場合がある。		
3				
4				
5				
6				
7				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習中の態度、デイリーノート、課題レポート、出欠、などを総合して判定する		40時間の実習時間を設ける(1単位)

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習Ⅰ		理学療法科/3年	2023/後期	実習(一部学内実習)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
		4単位(180時間)	必須	山本、西潟、竹中、他(実務経験有)
授業の概要				
臨床実習として、老人保健施設又は病院(現場)に赴き、臨床場面の実態を知り、専門家としての心構えと基本的なスキルの獲得をめざす。治療ができるための評価を経験できること。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
実習指導者の直接監視下で理学療法評価プロセスと基本的評価技術を系統的に経験し、理学療法評価一連の過程を理解・取得する。対象者にあった理学療法評価が行え、障害像の把握・問題点の抽出・目標設定が行えることを目標とする。また、医療従事者としての心構えや自覚を高める。				
回	テーマ	内容		
1		2023年10月頃より180時間の実習の予定		
2		新型コロナウイルス感染症にて実習中止などの場合、期間変更もしくは学内実習とする場合がある。		
3				
4				
5				
90				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価 課題・レポート	50.0% 50.0%	現場での実習、提出されたデイリー、ケースノート、学校での発表により総合的に判断する。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習Ⅱ		理学療法科/3年	2023/後期	実習(一部学内実習)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
		8単位(320時間)	必須	山本、竹中、西潟、他(実務経験有)
授業の概要				
<p>臨床実習として病院に赴き、臨床場面を知り、臨床実習Ⅰで習得した基本的評価技術や理論がどのように実践でしようされているかを学ぶ。  また、治療の知識・技術がどのように行われているのかを臨床現場を通じて知る。  【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>実習指導者の直接監視下で学内教育や臨床実習Ⅰで習得した理学療法の基本的評価技術や理論を対象者に応用することができ、問題点の抽出・目標設定・治療計画の立案が行えることを目標とする。  また、自己の治療計画を実践することで治療技術を学び、専門職としての知識・技術の習得および自己研磨することを目標とする。</p>				
回	テーマ	内容		
1		2024年1月ごろより320時間の実習の予定		
2		新型コロナウイルス感染症にて実習中止などの場合、期間変更もしくは学内実習とする場合がある。		
3				
4				
5				
158				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価 課題・レポート	50.0% 50.0%	実習、デイリー、 ケースノート、学 校での発表により 総合定期的に成績を 判断する。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習Ⅲ		理学療法科/4年	2023/前期	実習(一部学内実習)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
		8単位(320時間)	必須	小島、竹中、西瀧、他(実務経験有)
授業の概要				
臨床実習Ⅰ・Ⅱの成果を踏まえ、理学療法の評価から治療計画の立案、治療計画の実施、再評価の一連の流れを経験することで、知識と技術を習得することを目指す 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
実習指導者の直接監視下で学内教育や臨床実習Ⅰ・Ⅱで習得した技術や理論を対象者に応用することができ、自己の考えをもって問題点の抽出・目標設定・治療計画の立案が行えることを目標とする。また、実習指導者の指導の下、治療・指導を実施し、その効果判定を行い、治療の変更などが行えることを目標とする。				
回	テーマ	内容		
1	令和5年5月8日～8月30日のうち320時間	前半・後半の2クールに分散して実習を行う		
2		新型コロナウイルス感染症にて実習中止などの場合、期間変更もしくは学内実習とする場合がある。		
3				
4				
5				
6				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題レポート、デイリーノート、出欠、実習中の態度、症例報告会の発表などを総合的に判断する		320時間の実習時間を設ける(8単位)